

地域包括ケアシステムが深化して
いく中で、歯科医療の充実に向け
ての（一社）浜松市歯科医師会の
取り組み

一般社団法人 浜松市歯科医師会
地域歯科保健医療部

代表者 相澤 秀夫

大野 守弘

才川 隆弘

喜多 勇治

村上 祐介

木村 裕一

藤田 欣宏

長野 正弘

鈴木 美穂

田口 宏

清水 信行

鈴木 隆之

渋谷 光広

本目 恵子

梅ヶ枝 裕子

内容の要約

【目的】現在、日本は急速な高齢化が進んでおり、地域包括ケアシステムの構築が進められている。地域包括ケアシステムとは、地域住民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るよう、様々な生活支援サービスが有機的に提供されるシステムである。その中で、口腔衛生管理・口腔機能管理をはじめとして歯科専門職の関与が期待されている部分は大きく、これらは、単に口腔内の環境をより良く保つだけではなく、食事・栄養をはじめとした QOL の向上、誤嚥性肺炎の予防、介護予防など様々な分野にも波及効果を及ぼすことが考えられる。地域包括ケアシステムの中で歯科専門職が有機的に歯科医療を提供するためには、多職種連携が必須であり、多職種・他団体や行政と顔の見える関係を築き、何ができるのかを伝え、歯科専門職が果たすべき役割を十分に理解してもらう必要がある。そこで、今後、地域包括ケアシステムが構築され、さらに深化していく中での歯科専門職が果たす様々な役割について理解してもらうために、(一社)浜松市歯科医師会では、地域包括支援センター三方原圏域における、多職種連携協働で地域住民を支えるためのモデル事業への参画、本会主催の多職種・他団体との連携を推進するための研修会を開催した。そこで、これらの活動について報告する。

【活動内容】

- ・多職種・他団体や行政と顔の見える関係を築き、連携の強化・情報の共有を図るための活動を行った。
- ・多職種・他団体や行政に対し、歯科専門職が果たす役割について理解してもらうための活動を行った。

【活動実績】

- ・地域包括支援センター三方原圏域におけるモデル事業、「多職種連携協働で地域住民を支えるために～こうすればうまくいく！ポイントが見える化しよう～」へ

の参画。

- ・(一社)浜松市歯科医師会が主催する、多職種・他団体との連携を推進するための研修会の開催。

【考察】地域包括ケアシステムの中で歯科専門職が有機的に機能し、その役割を果たすためには、「顔の見える関係を築く」、「何ができるのかを伝える」、「歯科につながる人の存在」、「情報の共有」が大切な要素と思われる。これらの要素を得て、歯科専門職が地域包括ケアシステムの中で有機的に機能するためには、今後も、多職種・他団体や行政が主催する研修会や講演会、モデル事業等に積極的に参加し、地域にどのような社会資源があるのかを把握し、その地域の特性や状況に応じた柔軟な対応が必要であると思われる。また、多職種や他団体が主催する研修会や講演会に参加するだけでなく、歯科医師会が主催する研修会や講演会で、情報を発信し続けることも大切な要素であり、今回、歯科医師会主催の研修会を行い、その有益性を強く感じた。

今後、地域包括ケアシステムの中で、歯科専門職が有機的に機能するために、個人対個人のつながりを築くだけでなく、その地域全体の歯科関係者・多職種・他団体・行政間の問題としても捉え、地域ケア会議への参加、退院時カンファレンスへの参加、歯科医院の開業地を対象とする地域包括支援センターとの連携や行政との意見交換等も大切な要素であると思われる。これらの手助けとなるために、モデル事業への参画や、歯科医師会が主催する多職種連携研修会は非常に有意義なものであったと考えられる。

研究・活動内容

【目的】現在、日本は急速な高齢化が進んでおり、地域包括ケアシステムの構築が進められている。地域包括ケアシステムとは、2025年を目途に、何らかの理由で支援や介護が必要な状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制のことを言う。もう少しかみ砕いて言うと、「ひとが住み慣れた地域で、病気やケガによって介護が必要となっても住み続けることが出来るシステム」のことである¹⁾。しかし、今後の日本においては、さらなる高齢化が待ち受けており、そこには大きな地域差も見込まれている。そのため、都道府県や市町村が地域の自主性や主体性にに基づき、地域の特性に応じてシステムを構築することが重要である。このシステムを構築していくうえで、当然、その中で歯科口腔保健の充実を図る必要がある。その理由は、歯科口腔保健を充実させることは、生活の質を向上させることに直結していることが挙げられることは周知の事実である。

そこで、地域包括ケアシステムが構築されていく中で、歯科口腔保健を充実させていくために、歯科専門職がどのように関わっていくのかを改めて考察する必要がある。その関わり方として、在宅歯科医療・介護連携を推進し、何らかの理由で支援や介護が必要となり、歯科医院に通院することができなくなっても、地域包括ケアシステムの中で口腔管理ができる体制を作ること、また、施設においても口腔管理に係る取り組みを充実させること等が挙げられる。しかし、対象となる方の支援や介護が必要となる理由も様々であり、生活の場をはじめ、その方を取り巻く環境も様々である。よって、地域包括ケアシステムの中で歯科口腔保健の充実を図るうえで、我々歯科専門職のみが単独で動き、歯科口腔領域のみの問題として捉えても十分な効果が得られない可能性が高い。その地域の実情に応じた、地域全体を取り巻く問題として捉える必要がある。

そこで、その圏域における地域包括支援センターとの連携、地域ケア会議や多職種連携推進のための研修会・会議等への積極的な参加、行政との連携等が必要となり、これら多職種・他団体に対しても、歯科専門職の必要性を十分に認識・理解してもらい、我々はそのような役割を果たし、何をすることが出来て、どのような効果があるのか等、周知する必要があると考えた。

(一社)浜松市歯科医師会では、その「周知の必要性」の一環として、これまで多職種・他団体が主催する多職種連携研修会や会議等に積極的に参加し、専門職の方と顔の見える関係を築き、情報の共有を図るための手段を得ること、また、歯科専門職が果たす役割やその効果等を伝えることを行ってきた。しかし、多職種・他団体が主催する研修会や会議等では、歯科口腔領域に関することや歯科口腔保健の推進に関する以外がメインのトピックスになることも多く、歯科専門職の必要性・重要性をはじめとした歯科の役割を十分に伝えることが出来ないことが多いと考えられた。そこで、これら多職種・他団体が主催する研修会や会議等に参加することも継続し、様々なネットワークの構築を進めながらも、この歯科専門職の必要性・重要性をはじめとした歯科の役割を、十分に多職種・他団体に伝えることが出来る方法はないかと考えた。

その一つの方法として、地域包括支援センター三方原の圏域をモデル地区とした、「多

職種連携協働で地域住民を支えるために～こうすれぱうまくいく！ポイントをみえる化しよう」への参画や、(一社)浜松市歯科医師会が主催する多職種連携研修会を開催することが、有効な方法になり得るのではないかと考えた。今回、このモデル事業へ実際に参画し、また、本会主催の多職種連携研修会を開催したので、その活動に関して報告する。

【活動内容】

(1) 地域包括支援センター三方原の圏域をモデル地区とした、「多職種連携協働で地域住民を支えるために～こうすれぱうまくいく！ポイントをみえる化しよう」への参画について

浜松市では、平成 28 年度より「浜松市の医療及び介護連携連絡会」(令和元年度より「浜松市地域包括ケアシステム推進連絡会」へ改称)が発足し、(一社)浜松市歯科医師会でもこの連絡会に協力し、本会会員が、この連絡会のメンバーとして発足当初から参加している。この連絡会は、発足当時は「連携部会」、「市民啓発部会」、「研修部会」、「情報共有部会」の 4 つの部会で構成され、私は「連携部会」に所属した。なお、現在はこの 4 つの部会に「事業部会」が新たに加わり、本会会員もメンバーとなり、活動している。この連携部会の平成 29 年度の活動において、「多職種連携に関する現状と課題」を抽出したところ、多職種連携の在り方についてモデル地区を作り、検討することが提案された。そこで、平成 30 年度に「地域包括支援センター三方原」の圏域をモデル地区とした、「多職種連携協働で地域住民を支えるために～こうすれぱうまくいく！ポイントをみえる化しよう」が行われた。

なお、このモデル事業のメンバーは、医師・歯科医師・薬剤師・看護師・理学療法士・病院相談員・主任介護支援専門員・精神保健福祉士・CSW(コミュニティーソーシャルワーカー)・社会福祉士・浜松市役所高齢者福祉課の担当者と構成された。

(2) (一社)浜松市歯科医師会主催、多職種連携研修会の開催について

浜松市では、平成 26 年度に歯科口腔保健推進条例が制定され、この条例に基づき、歯科口腔保健推進計画が策定された。この条例の制定・計画の策定は、在宅療養が必要な高齢者のみではなく、障がいを持っている方、お子さん等いかなる状況に置かれている浜松市民においても、口腔の管理を行うことが「心身の健康保持増進」、「健康寿命の延伸」、「生活の質の向上」等につながることから、歯科専門職が果たすべき役割・責任もより明確化されたと言える。すなわち、地域包括ケアシステムが構築されていく中でも、「生涯にわたる歯科口腔保健」を推進し、「状況に応じた歯科口腔保健医療」の対策を立てるため、歯科専門職が有機的に機能しなければならない。

浜松市においては、これまで各区あるいは他団体で多職種連携に関する講演会や研修会等が行われ、本会会員も参加していたが、前述のように、それだけでは地域包括ケアシステムの中での歯科専門職の必要性や役割等、我々が有機的に機能するためにはどうすれば良いか、十分に議論することが出来なかったと言える。

今後、地域包括ケアシステムが構築され、深化していく中で、その必要性や役割等を十分に多職種や他団体に伝え、有機的に機能するためには、(一社)浜松市歯科医師会が直接、歯科医師や歯科衛生士の立場から様々な情報を多職種・他団体に対して発信することが必要であると考え、この研修会を企画した。

【活動実績】

(1) 地域包括支援センター三方原の圏域をモデル地区とした、「多職種連携協働で地域住民を支えるために〜こうすれぱうまくいく！ポイントをみえる化しよう」への参画について

①第1回会議：平成30年6月22日

メンバーの顔合わせを行い、多職種連携がうまくいく時とそうでない時の要因の整理を行った。

②第2回会議：平成30年7月20日

この会議での話し合いだけではなく、多職種を集めた研修会の開催も有効である、ということから、2回、研修会を開催することを決定した。

③第3回会議：平成30年8月22日

1回目の研修会では、架空の事例をもとに多職種の役割を知り、各職種の視点の違いも知り、自分の役割や出来ることを多職種に伝え、多職種連携がうまくいくためのポイントを抽出することを目的とすることを確認した。また、グループワークも行うことにより、職種による視点や考え方の違いも実感してもらうことになった。

④第4回会議：平成30年9月21日

研修会の行い方や内容等について検討した。

⑤第5回会議：平成30年10月12日

研修会当日の流れ、メンバーの役割の確認等を行った。また、この会議や2回の研修会の内容等を踏まえ、「多職種連携がうまくいくためのポイント集」を作成することが決定した。

⑥第1回研修会：平成30年11月10日

架空の事例を提示し、この事例に対する説明を行った後、この事例の方を多職種でどのように支援するのか、グループワークを行い、意見交換を行った。

参加者は、医師・歯科医師・薬剤師・看護師・保健師・ケアマネジャー・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・介護ヘルパー・CSW(コミュニティソーシャルワーカー)・生活支援コーディネーター等多岐にわたり、合計82名が参加した。実際の内訳や、今回の研修会で出た意見について、「資料1」に示す。

⑦第6回会議：平成30年11月19日

第1回目の研修会の振り返りを行った。また、「多職種連携がうまくいくためのポイント集」の内容を検討した。

⑧第7回会議：平成30年12月19日

引き続き、「多職種連携がうまくいくためのポイント集」の内容についての検討と、第

2回研修会の内容、研修会当日の流れ、メンバーの役割の確認等を行った。

⑨第2回研修会：平成31年1月18日

今回は、浜松医科大学医学部附属病院、医療福祉支援センター、特任教授の小林利彦先生を講師としてお招きし、「浜松の専門職が今より仲良くなるために必要なこと～多様性の許容と相互のレスpekt～」という演題で講演が行われ、講演終了後、この内容をもとにグループワークを行った。

今回も、第1回目の研修会と同様の職種の方々、合計90名が参加した。実際の内訳や今回の研修会で出た意見について、「資料2」に示す。

⑩多職種連携協働で地域住民を支えるために「こうすれはうまくいく！」ポイント集の作成について

これまでの一連の会議と、2回の研修会の内容を踏まえ、作成したポイント集について、「資料3」に示す。

(2)(一社)浜松市歯科医師会主催多職種連携研修会の開催

①第1回研修会

令和元年5月23日に浜松歯科衛生士専門学校2Fホールで行った。「地域包括ケアシステムにおける歯科の役割について」という演題で、本会の地域歯科4専門部会(母子・学校歯科専門部会、成人歯科専門部会、在宅歯科・介護専門部会、特殊歯科専門部会)部長の先生方が、それぞれの部会での活動内容について説明し、地域包括ケアシステムが構築され、深化していく中で、すべてのライフステージにおいて口腔管理を行うことの必要性・重要性、果たすべき役割等について講演を行った。本会には、この4つ専門部会があることにより、すべてのライフステージが網羅できることになるわけである。この講演が終了後、参加者を各区毎に分けたグループを作り、グループワークを行い、連携の推進を図った。なお、この第1回研修会の参加者は、本会会員、地域包括支援センタースタッフ、ケアマネジャー、訪問看護師、浜松市在宅医療・介護連携相談センターつむぎのスタッフ、浜松市役所高齢者福祉課の担当者、合計89名であり、浜松市内の7区からある程度均等に参加者が出るように調整した。また、この研修会で行ったアンケート結果について「資料4」に示す。

②第2回研修会

令和2年1月30日に、アクトシティ浜松コンgresセンター52～54会議室で行った。今回は、静岡県歯科衛生士会の歯科衛生士、小粥江利子先生による「歯科衛生士の立場から見た、地域包括ケアシステムにおける歯科の役割、口腔管理の重要性について」という演題の講演を行い、その後、第1回目と同様に各区毎にグループワークを行い、連携の推進を図った。参加者は、第1回目と同様の職種に歯科衛生士も加わり、合計75名であった。今回も、浜松市内の7区からある程度均等に参加者が出るように調整した。「資料5-1、5-2」にこの研修会の様子を示す。また、研修会で使用したアンケート結果について「資料6」に示す。

【考察】

地域包括ケアシステムが提案された背景には、少子高齢化という社会的問題がある²⁾。特に、高齢化に関しては、日本は世界中のどの国も経験したことがない速度で進んでおり、浜松市も例外ではない。浜松市は、全国の市町村で第2位の面積を有し、沿岸部・都市部・平野部・中山間地域と地域の多様性を有していることが大きな特徴である。今後、浜松市で地域包括ケアシステムの構築が進み、深化していく中で、歯科口腔保健を充実させていくためには、歯科専門職である歯科医師や歯科衛生士が、その地域の特性を理解し、有機的に機能する必要があると考えられる。そのためには、その地域の社会資源を把握し、ある程度の主体性を発揮する必要もあると考えられる。その一助とするために、今回、モデル事業への参画、本会が主催する多職種連携研修会を開催したが、想像以上に、地域包括ケアシステムが構築され、深化していく中での、歯科口腔保健の推進に対する期待が大きいことが分かった。やはり、口腔のケアを行い、口から食事を摂取する状態を保つこと、口腔内のトラブルへの対応、誤嚥性肺炎の予防等、歯科専門職に対する期待は大きいことを肌で感じた。

また、今回参画したモデル事業や、本会主催の多職種連携研修会アンケートの結果を見ると、このような研修会を開催する場合、何のためにこの研修会を開催するのか、何を伝えたいのか等目的を明確にする必要性を改めて感じた。この目的が明確でないと、多職種が一堂に会する研修会を行い、理想論を話し合っても、「絵に描いた餅」になってしまう可能性もある。研修会を行っただけで、その後、何も変わらない、といったことになる可能性もあると思われる。やはり、歯科からの情報を発信し、それを理解してもらうためには、本会主催の研修会を行う必要があり、また、その内容を吟味し、具体的なその後の変化をイメージする必要性を強く感じた。

今後、地域包括ケアシステムの中で、歯科専門職が地域の特性を理解し、有機的に機能するために、尾崎ら³⁾は「情報の共有」、「良質なコーディネーター」、「顔の見える関係」が大切であると述べている。今回、モデル事業へ参画し、本会主催の多職種連携研修会を開催したが、これらを経験し、やはり「顔の見える関係を築く」、「良質なコーディネーター(歯科につなぐ人)の存在」、「歯科専門職は何が出来るのかを伝える」、「情報の共有」が大切な要素であると改めて考えさせられた。なお、2回の多職種連携研修会を開催するにあたり、参加要請を行った多職種・他団体は、浜松市内各区の「ケアマネジャー」、「訪問看護師」、「地域包括支援センタースタッフ」及び「浜松市在宅医療・介護連携センターつむぎのスタッフ」、「浜松市役所高齢者福祉課の担当者」であった。その理由は、「歯科へつなぐ人は誰か?」、という視点で見たときに、これらの職種・団体の専門職やスタッフ、担当者の方々が、特に重要な役割を果たすのではないかと考えたからである。実際、研修会の後に各区毎にグループワークを行ったが、その場でも活発な意見交換がなされ、これらの専門職やスタッフ、担当者の方々との連携をさらに強固なものとするのが、地域包括ケアシステムが構築され、深化していく中で我々歯科専門職が有機的に機能し、歯科口腔保健を推進していくためには必須である、と強く感じた。

今後も引き続き、多職種・他団体が主催する研修会や講演会をはじめ、モデル事業等に積極的に参加するだけでなく、本会が主催する多職種連携研修会を開催し、情報を発信し続けることも重要な要素であり、今回、その有益性を強く感じた。

また、今後、地域包括ケアシステムの中で歯科専門職が有機的に機能するためには、地域の特性を理解すること、個人対個人のつながりを築くだけではなく、その地域全体の歯科関係者・多職種・他団体・行政間の問題としても捉え、地域ケア会議への参加、退院時カンファレンスへの参加、歯科医院の開業地を対象とする地域包括支援センターとの連携、行政との意見交換等も大切な要素と考えられる。

今後、浜松市も 2025 年、2040 年を迎えさらに社会状況、地域の様々な状況が変化すると思われる。本会においても、会員を取り巻く環境をはじめ、様々な変化が訪れると思われる。地域包括ケアシステムが構築、深化していく中で、どのような状況の中でも、歯科口腔保健を推進し、口腔領域の健康を維持することは、「ひとが生きていく中で必須なこと」である。今後、どのように多職種・他団体との連携を維持し、歯科医師会からも情報を発信していくか、常に検討していきたいと考えている。

【参考文献】

- 1)市川哲雄. 白山靖彦編. 歯科がかかわる地域包括ケアシステム入門. 医歯薬出版株式会社. 2017.
- 2)田村清美. 渋谷恭之監修. 地域包括ケアと口腔ケア. (一財)口腔保健協会. 2017.
- 3)尾崎哲則. 三澤麻衣子. 上原 任. 地域包括ケアシステムにおける歯科保健のあり方. 保健医療科学 2016 Vol.65 No.4 p.368-374

資料

資料1：地域包括支援センター三方原の圏域をモデル地区とした、「多職種連携協働で地域住民を支えるために～こうすればうまくいく！ポイントを見える化しよう」、第1回研修会(平成30年11月10日実施)アンケート結果

資料2：地域包括支援センター三方原の圏域をモデル地区とした、「多職種連携協働で地域住民を支えるために～こうすればうまくいく！ポイントを見える化しよう」、第2回研修会(平成31年1月18日実施)アンケート結果

資料3：地域包括支援センター三方原の圏域をモデル地区とした、「多職種連携協働で地域住民を支えるために～こうすればうまくいく！ポイント集」

資料4-1～8：(一社)浜松市歯科医師会主催、第1回多職種連携研修会アンケート結果

資料5-1～2：(一社)浜松市歯科医師会主催、第2回多職種連携研修会の様子

資料6-1～7：(一社)浜松市歯科医師会主催、第2回多職種連携研修会アンケート結果

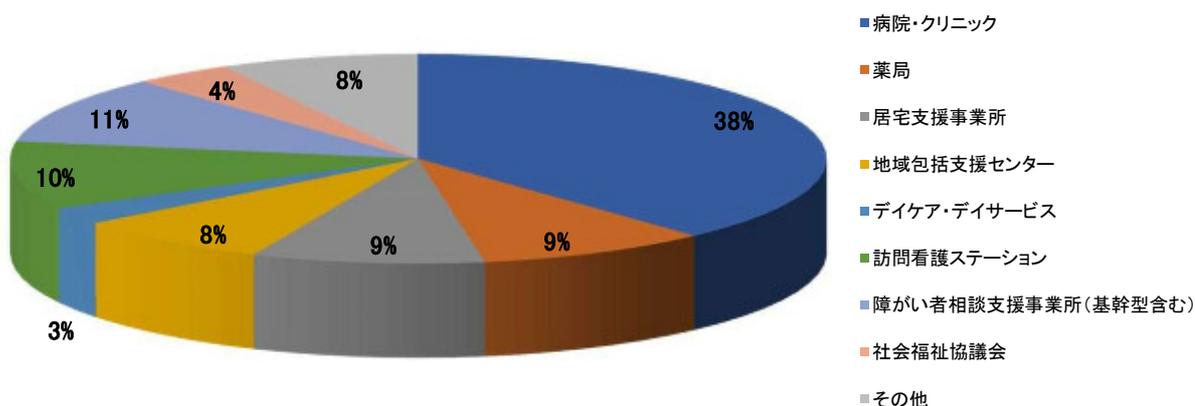
資料1 モデル事業第1回研修会『他職種の役割・視点の違いを体感しよう』アンケート結果
 実施日 平成30年11月10日

《1》あなたの所属機関の種別、職種と経験年数を教えてください。

所属機関

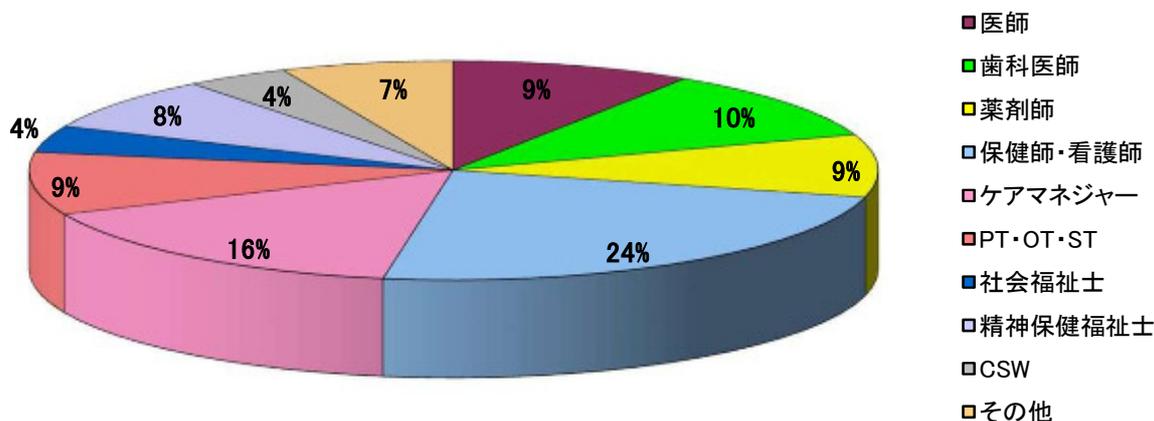
病院・クリニック	29
薬局	7
居宅支援事業所	7
地域包括支援センター	6
デイケア・デイサービス	2
訪問看護ステーション	8
障がい者相談支援事業所（基幹型含む）	8
社会福祉協議会	3
その他	6

出席者	82	
回収	76	92.7%



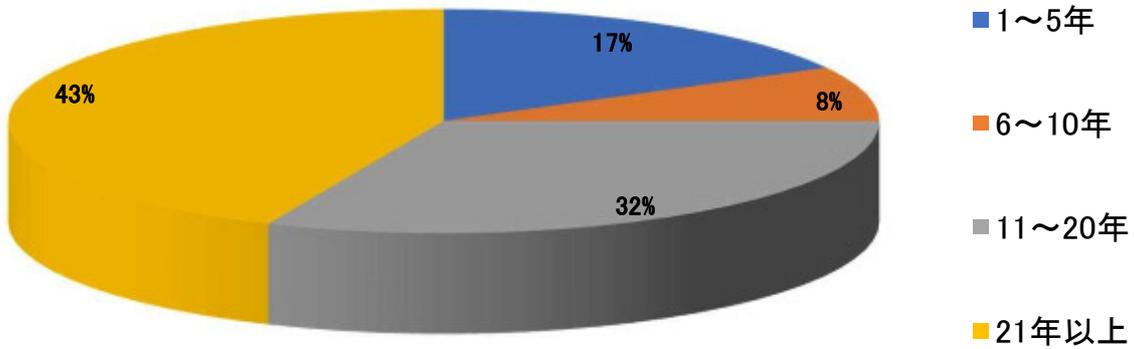
職種

医師	7
歯科医師	8
薬剤師	7
保健師・看護師	18
ケアマネジャー	12
PT・OT・ST	7
社会福祉士	3
精神保健福祉士	6
介護福祉士・介護ヘルパー	0
CSW	3
生活支援コーディネーター	0
その他	5



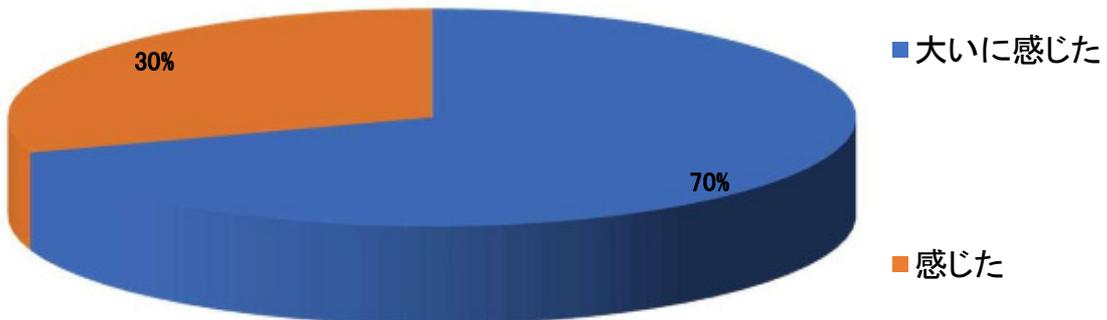
経験年数

1～5年	13
6～10年	6
11～20年	24
21年以上	33



《2》グループ討議は他職種の視点や役割の違いを感じられるものであったか？

大いに感じた	53
感じた	23
あまり感じられなかった	0
感じられなかった	0



《3》 討議しきれなかったこと、気づいたこと

病院・クリニック

- ・事例検討の成功例、失敗例から討議できれば良かった
- ・訪問の際の近隣家庭との関係
- ・まだまだそれぞれの活動を知らないし、そのような活動をしてくれる所があるということを知らないことが多いと思った
- ・息子についての今後の方針
- ・困難事例では最初から多職種を集めて意見交換、意思統一をする。やはりカンファレンスが大切
- ・今まで以上に様々な職種と話しができて良かったです
- ・現在の多様な職種をもっと理解する必要があると思いました
- ・色々な職種の方の話しを聞くことができ、とても勉強になりました
- ・2時間は思ったよりも短いです
- ・他職種が行っていることで、新しい発見がありました

薬局

- ・多職種の働きかけ、つながりが、いかに必要かよく理解できた
- ・市民の方々が相談に迷わないような環境
- ・専門職間でも相談先が分からなかったりします
- ・本人が望んでいないのに、介入が必要な場合、介入が難しいことがよく分かりました
- ・大変勉強になりました
- ・具体的な息子さんの自律方法
- ・他職種+地域の連携が必要

居宅介護支援事業所

- ・職種により着目点の違いを理解できた
- ・グループ内では沢山意見を聞くことができました
- ・他グループの意見も聞いてみたいと思いました

地域包括支援センター

- ・1部、2部は時間に余裕があったが、3部が時間無く、全員の意見が聞けなかった
- ・Dr. お一人で頑張っている地域があることを知り、是非協力させて頂きたいと思いました
- ・こういった場は必要かと思いました
- ・病院と在宅ケアとの連携について

訪問看護ステーション

- ・今連携していく上で、何が必要なかを常に考えることが必要だと思った
- ・在宅で関わっている方々は、本人の思いや意向を大事にしていることを改めて感じた
- ・視点の違いや情報共有の大切さを感じました
- ・事例を通して話せたことと事例以外にも聞きたいことがあって、それを知る機会になった
- ・情報提供だけだった
- ・他のグループの意見も聞いてみたいです
- ・事例を通して様々な問題が色々な方から出てきたので、もう少し話す時間があれば良かったです

障がい者相談支援事業所（基幹型含む）

- ・事例としてどのように支援していくのか連携の仕方をまとめられると良かった
- ・普段、医師と直接関わる機会が少ない為、本日は医師からの意見を聞くことができ勉強になりました

社会福祉協議会

- ・職種ごとのできる事をシートにまとめ整理することで、他職種とどんな連携ができるのか理解できました

その他

- ・各職種が感じていること、思いを知る機会となり、とてもよい研修でした
- ・事例を通して役割を理解することができると感じました
- ・介入するときのタイミングや難しさなど、いろんな職種の方も考え、悩んでいるということに気付いた
- ・やはり情報を共有することは大切と感じた

《4》多職種連携協働について「重要」と感じたこと

病院・クリニック

- ・退院支援ナースが動いて、多職種に働きかける（ドミノ式）がいいのでは
- ・市民の相談事のセンター作り
- ・胃がん、ひきこもり、統合失調症など文書からの情報だけによるサービス提供者側の先入観によって可能性が制限されてしまう危うさを感じた。先入観を持たず、実際はどうなのかという視点をいつも持ち、どう問われているのかを考えることが必要。これらの情報を共有することで、本人・家族の意向に沿えたサービス提供につながると思った
- ・まわりの人が気が付かないといけない
- ・お互いの立場を理解し、やや努力すること！越境しないこと！
- ・情報の伝え方に気を付ける
- ・お互いの理解していくこと
- ・よく話すことが大切
- ・職種への理解とその窓口の場所
- ・声を掛け合うこと
- ・社会資源の把握、つなぐ意識、意見交換、意思統一
- ・家をもつという視点 訪問ナースの導入
- ・まずはやってみる事
- ・家族を支えていくという支援が重要と感じた
- ・相互理解、つながり方、顔がみえる関係性
- ・患者、利用者の思いに沿った支援をその時々で必要な職種と連携する。きちんと情報共有する
- ・他の意見を尊重する。情報共有
- ・他職種の職能を理解し活用できる事
- ・情報の信頼、過不足
- ・福祉と医療のハードルを下げる。誰に相談すれば良いかわかる状態が必要
- ・多職種の方がどのような仕事をしているか知ることが大切だと思いました。また、顔のみえる関係を作ることが重要と感じました
- ・各職種の専門性の理解。どのような職種があるのかの理解。共通言語。本人の思い、家族を含めた本人を取り巻く環境、人間関係の理解。地域を含めたサポートの重要性
- ・一人の患者様やその家族を色々な方面からサポートしていくことで、できることがあるのではと感じた
- ・関連機関の把握
- ・職種に捉われずディスカッションできると良いように思いました。まさにグランドルールにあった5項目なのかと思います
- ・全然知らない職種があることに驚きました。とても勉強になりました
- ・お互いの職種、役割を理解し、視点の違いを大切に

薬局

- ・引きこもりの方を受けてもらえる障がい相談員さんが重要と感じた
- ・職種への関心を持ち、業務内容を理解すること
- ・いろいろな専門職があって、個々の事例で支援の仕方があるのだなと思いました。普段から顔が見える関係づくりができることが大切だと思いました
- ・団結して仲良く患者さんの為に頑張っていく
- ・問題のある事例について情報を共有して介入していくことが大切
- ・情報の共有と情報の公開 見える形での情報

居宅介護支援事業所

- ・気になることがあれば誰かに繋げる事
- ・それぞれの職種の役割、できることを知ることが大切。その上で適切な場へつなげていく
それぞれの専門性を活かしていく。気になることがあれば情報発信をして、連携できる環境作りをしていくこともケアマネとして必要と思った
- ・顔がみえる関係づくり。相談や支援の入り口を明確にする
- ・医者等、貴重な意見をもらえて、集まったメンバーもすごいメンバーでびっくりしました
改めて多職種連携の必要性を感じました。
- ・話し合い
- ・情報共有、相互理解

地域包括支援センター

- ・信頼関係
- ・話し合い、情報共有、多職種の仕事を理解する
- ・それぞれの役割を知ること
- ・互いに連携できるタイミングを探っているのだと思います。このような機会を作ることは重要です
- ・それぞれの職種の出来ること、出来ないことを確認し、それぞれの職種が少しずつ自分の領域を超えて支援していくことで、スキマのない支援ができると感じました

デイケア・デイサービス

- ・社会資源を知り、それぞれの役割や機能を把握し、タイムリーに相談していく
- ・顔の見える関係作りをするために、こういう会やサ担に積極的に参加したい
- ・支援する側、される側の思いが大切

訪問看護ステーション

- ・横の連携は非常に大切（顔の見える関係）だが、相談を一手に受け付ける箇所も必要なのかも
- ・それぞれの機関がどのような関わりをしているのかを知り、早い段階から相談できると、さらに多職種に広がりが出てくると感じた
- ・相互理解、情報交換、知っている人（連絡できる人）をたくさん作る
- ・とにかくまず利用者、患者さんに携わること
- ・まずは、それぞれの職種がどんな考えを持って、どう動いているのか、知ること。知った上で、色々なことに結び付くと思います
- ・直接、多職種の方々と話ができる、他職種の感じていること考えていることが聞かれて良かったです。こうして皆さんで考えることがとても重要だと思いました
- ・顔の見える関係を持つ。それぞれの職種の意見をみんなで共有し、話し合う
- ・まずはアウトプット

障がい者相談支援事業所（基幹型含む）

- ・『顔の見える関係作りが』実感できるようになった（共通認識がある）。医師との距離をもっと縮めたい。現場を知ってもらい連携をとっていきたい。無理を承知で言ってます
- ・お互いをよく知ること。出来ること、出来ないこと、対象者がどういう人柄なのかも含め
- ・顔の見える関係は大切。連携は本人を中心にまとまるネットワークだと思うので、実践していくことが大切かと
- ・知識として相手の職種の理解を持っていても、実際には違ったり、ズレがあったり、その人の人柄があるので、顔を合わせて話ができると今後の支援に広がりが出て、希望が持てた。顔をあわせて話ができるというのは連携する上で安心につながると感じた
- ・本人、家族の人生を共に考える視点を持つためには、そのストーリーを共有し、思いを想像する過程を踏むことにあるように思う
- ・顔の見える関係
- ・困った時に誰に相談したらいいか、顔の見える関係がとれること
- ・情報共有がとても大切になると思いました。普段から顔の見える関係を作っていく事が大切です

社会福祉協議会

- ・平常時からの顔見知りとなる関係性がとても大切だと感じました
- ・お互いに相談しやすい関係づくり
- ・お互いの役割を知ってつながること

その他

- ・各職種で共通言語を持ち、相互理解を図っていくことが大切だと考える
- ・それぞれのできることに、得意不得意があるということ、そのことで共有することが大切であると感じた。まだまだ互いのことを知らないため、知る事も大切と感じた
- ・ケースが起きる前に連携関係（つながり）を深めておく必要があるのでは
- ・顔の見える関係作りが大切だと強く感じた
- ・視点の違いを知ること。役割の違いを知ること
- ・連携の言葉だけでなく、質が重要

《5》本会の活動についての要望

病院・クリニック

- ・多職種の事例検討があれば良い（成功例、失敗例）
- ・各職種の現場の状況がわかるとつながりやすいのもっと知りたい
- ・それぞれの職種（活動）を知る研修会があると良い 今もしているが
- ・地域の生活について、よく知っている人が加わるといいと思う
- ・会を繰り返すことで顔のわかる、知る人が増していくと思います
- ・定期的な開催だと思います
- ・会の進め方、工夫されていて良かったです。ありがとうございました

薬局

- ・またやって欲しい
- ・今後とも積極的に動いていけるようにします

居宅介護支援事業所

- ・この研修のバージョンアップ
- ・新たな情報を得ることができたのでアンテナを高くして研修等に参加したいと思いました
- ・このような機会をまた作って頂きたい
- ・今回の研修のような、顔の見える関係作りは大切だと思います。ありがとうございました

地域包括支援センター

- ・ありがとうございました

デイケア・デイサービス

- ・とても勉強になりました

訪問看護ステーション

- ・医療福祉介護等の多職種が集まることのできる場はなかなかないので良い経験になった。また参加したいと思います
- ・今回のように、ひとまわり大きな輪での色々な職種が集まってフランクに話せる場はよいと思う
- ・事例の検討は、それぞれの関わりがイメージしやすいと思いました 色々な方と話ができて面白かったです

障がい者相談支援事業所（基幹型含む）

- ・各地域をベースにした、同様の研修を行ってください
- ・継続が大切なので続けてもらいたいです。ありがとうございました
- ・ケースを通して、今後も伺って頂ければ幸いです

社会福祉協議会

- ・開催ですが、土日の昼間が希望です

その他

- ・本日、課題として出たことを次に情報を頂きたいと思います
- ・特にありません
- ・もっと他の人たちにも参加していただきたいと思った
- ・大変有意義な時間をいただきました。ありがとうございました

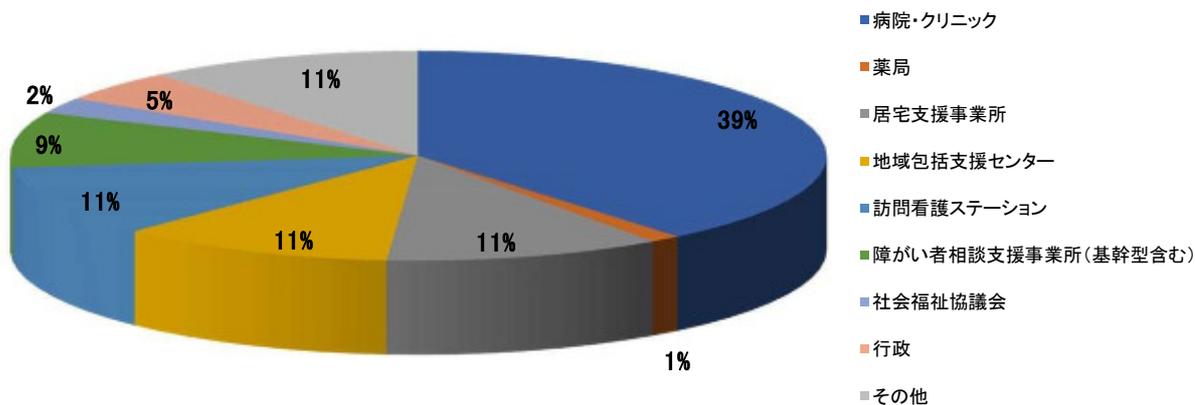
資料2 モデル事業第2回研修会『他職種の役割・視点の違いを体感しよう』アンケート結果
 実施日 平成31年1月18日

《1》あなたの所属機関の種別、職種と経験年数を教えてください。

所属機関

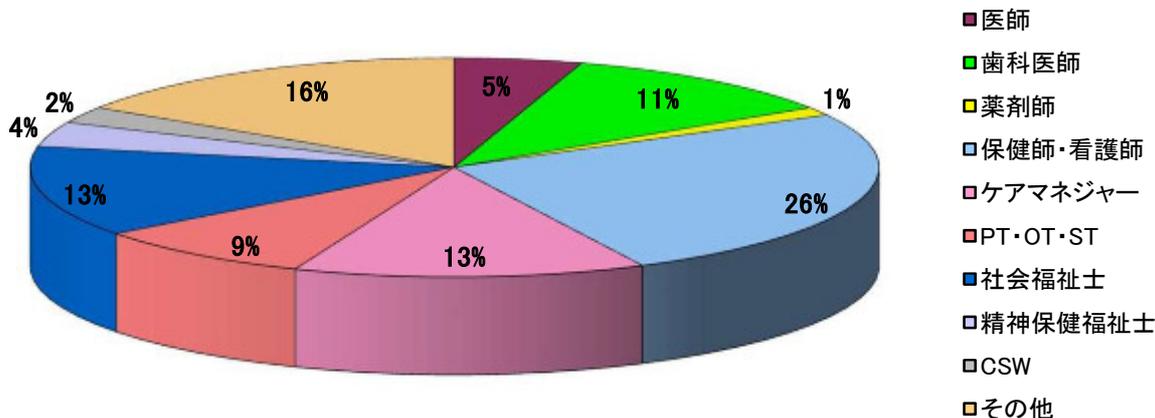
病院・クリニック	32
薬局	1
居宅支援事業所	9
地域包括支援センター	9
訪問看護ステーション	9
障がい者相談支援事業所（基幹型含む）	7
社会福祉協議会	2
行政	4
その他	9

出席者	90	
回収	82	91.1%



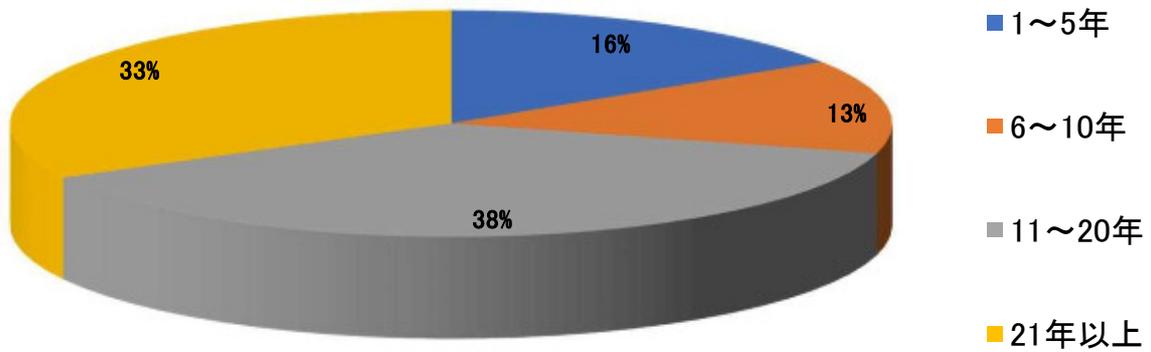
職種

医師	4
歯科医師	9
薬剤師	1
保健師・看護師	21
ケアマネジャー	11
PT・OT・ST	7
社会福祉士	11
精神保健福祉士	3
介護福祉士・介護ヘルパー	0
CSW	2
生活支援コーディネーター	0
その他	13



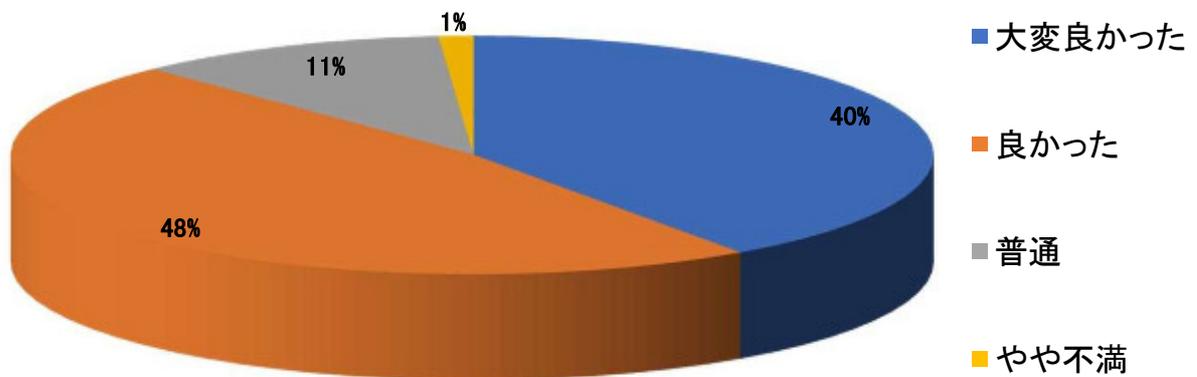
経験年数

1～5年	13
6～10年	11
11～20年	31
21年以上	27



《2》 グループ討議は他職種の視点や役割の違いを感じられるものであったか？

大変良かった	33
良かった	39
普通	9
やや不満	1



《3》 討議しきれなかったこと、気づいたこと

病院・クリニック

- 医師**
- ・次になんか共同作業を行うのが良いのでは
 - ・素晴らしお話を聞くことができました
 - ・話し合いの時間が短かったです。小林先生の話はとても良かったです、もっと皆さんと話しをしたかったです
 - ・話しができる関係の構築ができた
- 歯科**
- ・中・南・東区は地域が大きすぎて多職種の顔がみえにくくなっている。もう少しフォーカスを絞って会議ができると有難い
 - ・もう少しグループワークの時間があれば良かった
 - ・もう少しグループワーク討議の時間が欲しかったように思います
- 看護師**
- ・まずは見えない関係から見える関係になったことと、全員で意見交換できたことがとても心強かったです
 - ・具体的な事例でどう専門職種が考え対応するのか、意見交換すると各専門性がわかって依頼し易くなるように思いました
 - ・視野を広げることができた
 - ・グループの人数が多すぎるところ。話し合いができず、もう少し少人数で話が聞けると良かった
 - ・お互いの立場などわかりきれない所があったが、少しでも意見を聞くことができて良かった
 - ・話している時により立場や考え方も違うため、もう少し時間が欲しいと感じました
 - ・自分が感じた以外のところで他の人も感じているということにより分かったことがある
 - ・チームとして活動することに、相手をリスペクトすること

PT・OT・ST

- ・各職種の価値観などについて知る機会があれば尚良いと感じました
- ・多職種連携がどうすればうまくいくか、まず相手をリスペクトすることが大切なのではないかということを感じることができました
- ・色々な職種の立場の話が聞けたことは勉強になりました。もっと気軽に情報交換できる環境があればと思います
- ・グループ全員の仕事の内容が討議しきれなかった。医療と介護のお互いの見え方について
- ・今の自分がどれだけ多職種連携ができていないか理解できた
- ・話し合いの時間がもう少し欲しかったです。講演内容は、振り返りのよい刺激となりました

社会福祉士

- ・グループで具体的にできること、良かったことの話をする時間がとれなかった。各職種で地域の情報提供はするが、そのフィードバックがない事、その取り組みができるとよいと思った
- 保健師**
- ・「つながり」から調整の時になっていることを実感した。アサーション大切と思う。今後もっと自らができることを表現していきたい
- その他**
- ・名簿の一番上段はケアマネさんでよいのではないか

薬局

- 薬剤師**
- ・他の職種の方の考え方を聞いて良かった

居宅介護支援事業所

ケアマネジャー

- ・当たり前が当たり前ではない。正しいことはみんな違う。それぞれの職種をリスペクトすること
- ・全員の意見を聞くことができたので、もう少し深めていく時間が取れると良いと思いました
- ・それぞれの職業、職種について、どのようなことが地域で出来るのかももう少し話を聞いてみたかったです
- ・楽しい研修でした
- ・支援のポイント等、詳細は討議が未完成
- ・小林先生の話しが写真も含めて分かりやすかった
- ・時間が少ない

地域包括支援センター

ケアマネジャー

- ・グループ討議はもう少しテーマの設定が分かりやすいと議論が活発になったかなと思います

社会福祉士

- ・包括単位でしかけられることを行動したいと思いました
- ・他事業所で、できることをまた1つ知ることができた

訪問看護ステーション

- 看護師**
- ・もう少し時間があると良かったです
 - ・まだ連携を十分理解していない人たちにどうアプローチするか、そういう点も考えられると良い
 - ・時間が足りない。うまく連携をとれない事例の原因など各職種で聞いたかった
 - ・もう少し時間があると良かったです
 - ・障がい者支援についてもっと討議、理解が必要
 - ・こうすればうまくいく！の用紙を読み込む時間がなかった
 - ・ポイントがなかなか絞れない感があった
 - ・ポイント化に関してまで話し（グループワーク中）が及ばず残念でした
 - ・グループワークの時間がもう少しあると良いと思いました
 - ・8～9人いるとなかなか話し合いきれないと思いました
 - ・異なる職種の方の思いが自分と違うということを改めて感じ、理解に近づけたと思います

障がい者相談支援事業所（基幹型含む）

- 相談員**
- ・チーム作りの大切なところを学ぶことができた
 - ・連携という言葉について深めることができた
 - ・利用者のアセスメントができて、皆がコンセンサスを持ってそれぞれの出来る事ができると良いと感じた
 - ・具体的に共有の場を作れるとよいと思った
 - ・断らず訪問してみるという同じ気持ちが聞けて良かった

社会福祉協議会

- CSW**
- ・普段聞けない職種の方の意見をきくことができた
 - ・もう少しグループワークの時間が欲しかったです

行政

- 事務職**
- ・多職種連携での多様性の許容と相互のリスペクト
 - ・グループの人数が多く、一人の持ち時間が少なかった もっと話せたらと思った
 - ・心に残るキーワードが沢山見つかりました

精神保健福祉士

- ・それぞれの職種の考え、思いが聞けて良かった。それぞれの違いを認めることがとても大切だと思いました

その他

- 看護師**
- ・まだまだ相手の仕事や価値観など理解できていない事が多いと感じました

ケアマネジャー

- ・多職種連携とは、地域を支えることになかなか敷居の高い内容だと思いましたが、色々な方の意見をお伺いすることができ、よい学びになります

PT・OT・ST

- ・職種を離れた活動を通して相手を知る機会があると良いと思った。連携に必要なことが具体的に話がなされ良かった
- ・時間が短く、もう少し時間が欲しかった

社会福祉士

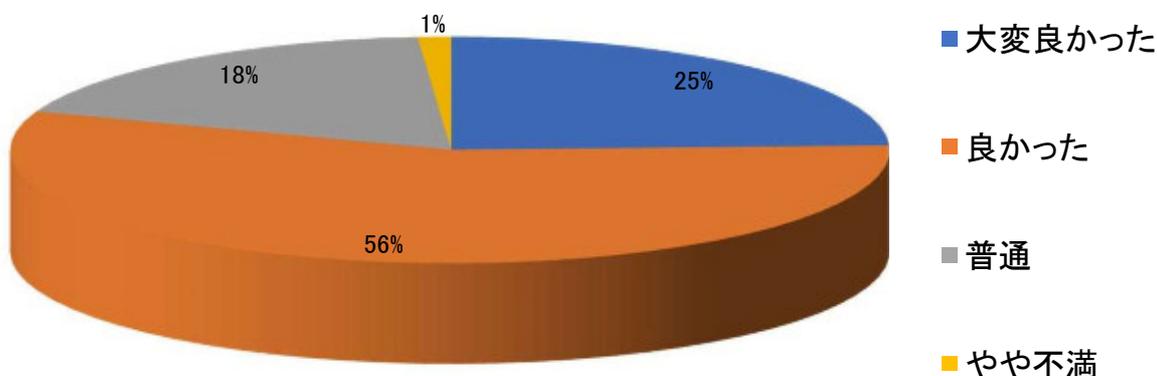
- ・グループワークの時間がもう少しあると良い

その他

- ・グループワークの時間をもっと多くとり、深められると良い
- ・職種が違ってても共通できること。思いの共有も多くできる

《4》多職種との視点や役割の違いについて理解が深まったか？

大変良かった	20
良かった	46
普通	15
やや不満	1



《4》多職種連携協働について「重要」と感じたこと

病院・クリニック

医師

- ・確実にし、一步を進めることを共有した
- ・お互いのリスペクト。今とても痛感しています
- ・チームの大切さ

歯科

- ・チームとして専門職の職能を生かした利用者さんの思いを支援していく事が大切と感じた
- ・どうつなげるかを意識することが大切
- ・今後ともよろしくお願いします
- ・話し合うこと
- ・同じ職種でも参加する人によって意見が違い、ひとまとめに職域も考えにくいのかもかもしれない。その人のその職域の個性が大きいかな

看護師

- ・お互いの仕事の領域をもっときちんと知る必要があると思いました
- ・自分の思う常識が決して他職種の常識ではないことを知る
- ・相互理解を深める機会をより広い形で作れたら良いと思います
- ・それぞれの職種の強みを生かすことの重要性。お皿のところの本人の選択が尊重される関わりを大事にしていきたい。病院だと家族の選択が第一になりやすい
- ・垂直でなく水平の関係ということがよくわかりました。安全に意見を言えることの大切さは本当に大切だと思いました。それぞれの個を大切にお互いをリスペクトする。リスペクトするためには、お互いをもっと知ることが大切と思いました
- ・正しい事を言う、他職種の正しいと自職種の正しいが違う場合、相手を理解する。自分の役割を果たす。顔がみえるのみではなく、頼める関係になることが大切だと分かった
- ・相手の立場を理解し、コミュニケーションが基本になることを再確認した
- ・連携のため多職種の壁が大きいこと。病院でもあるのですが地域ではさらに大変なのだと知りました
- ・得意分野を尊重し、違う考え方を学べたこと
- ・まずは相談してみようと思います

PT・OT・ST

- ・隙間をなくすための方法は、ためになりました
- ・自分の強みを認識しつつ相手の立場になって考えることが重要なのだと思います
- ・小林先生のお話でその職種は当たり前、常識と思っていることが、他職種の人はそうでないということを時々自分も感じます。書類やカンファレンスでも専門用語を用いずわかりやすい言葉を使用し、説明することを常に心掛けたいと思います
- ・まずお互いの職域を理解していない。勉強したいと感じました
- ・顔の見える関係性を継続し、活発に意見交換、情報交換すること。OPENな対話、とにかく集まること

社会福祉士

- ・チームで何かやるという活動ができると良いし、楽しそう

保健師 ・アサーション、お互いに認め合うこと、リスペクト=言いたい事を伝え合う勇氣、技術

薬局

薬剤師 ・情報を共有するところが必要

居宅介護支援事業所

ケアマネジャー

- ・自分は正しいか、チームビルディングする。この常識は常識か、断らない、印象的な発言でした
- ・正しい事、それぞれの職種で同じはずなのに違ってしまう現実があるのだと感じます。これはその職種の常識が世代間でも違っているのかなあとも感じます
- ・医療との連携の時、ケアマネ発、医師発の情報がバランス悪く、できないとお任せ支援になってしまう。互いのことを知っていく関係づくりが必要と理解できた
- ・チーム作り。ベクトルを同じように
- ・相手の役割、できることを知り、お互いに有効に活用していく。それぞれが社会資源となる
- ・地域のために自分ができの事をしていきたい
- ・一人だけでは何もできないが、何かするため立ち上がり、始めていき、チームで行っていく大切さを実感した
- ・多職種連携協働は利用者の方や家族のため、だから頑張らなければ！

地域包括支援センター

ケアマネジャー

- ・相手の強みを知る事も大事だと思うが、自身の得意な面を相手に伝える事も大切だと思いました

社会福祉士

- ・せっかく知り合った顔の見える関係（話せる関係）を維持継続していくことも大事と思った
- ・このような研修に参加する人たちはいいのですが、その他大勢の人たちをいかに巻き込んでいくか、課題だと思います
- ・お互いを認めること、チームは協働ということが理解できました。様々な職種の方の話を聞くことができ、良かった
- ・職種、専門性の理解、それを通じて認め合うこと、尊敬すること。基本的なことだがとても重要。講義も大変参考になった
- ・ケースワーク以外での多職種連携をどのように作っていくか？

訪問看護ステーション

看護師

- ・顔のみえる→話が出来る→形になることが一番重要だと感じました
- ・互いを知るには時間も必要。時間のとれるグループワークは難しいですか？
- ・色んな状況の人がいるので1つのものを作る時、視点をどこにおくか難しい。一緒にやる
- ・モデル事業はまさにそうでいい経験になっています→各地区特に自地区で何かに取り組みたい
- ・ITツールの活用も大切なのは（一斉に情報共有できるので）
- ・チームビルディングとても興味深かったです。ぜひ実践してみたいと思いました
- ・皆さんの意見を聞いて良かったです
- ・チームを作る際の重要なこと、難しさも感じた。チームで何かを作ってみる→これやってみようかなと思いました
- ・個の能力を高め、それを多職種連携に生かすこと。自分から働きかけることが重要だと思いました
- ・リーダーは常に変わっていったらいい。その時の状況に合わせてチームの中で変化させていくことが大事。利用者の真の思いに近づけられるように関わるといいなと思いました

障がい者相談支援事業所（基幹型含む）

相談員

- ・ケアマネ（介護）は周知されているが、障がいケアマネはまだだに思います
- ・連携するためには知ってもらうことが大切だと思います
- ・まだまだそれぞれの職種について知らない事が多いと感じました。今回のように直接会って話が聞けると理解しやすいかと思いました
- ・Teamingを成功させる要素、協働する、同じつくりあげるものを考える、省察すること
- ・相手を知り、認めあうことがベースだと感じた
- ・まずやってみる。その通りだと思った
- ・講演の通り

社会福祉協議会

CSW

- ・お互いの職種を理解することの大切さの確認をしました。正しいについて考えることができました
- ・ありがとうございました
- ・1つのところの役割が大きくなるのではなく、均等にそれぞれが活躍することが大切ということ

その他

行政

- ・支援には多職種連携協働は必要である
- ・チームビルディング、一緒に何かやる仕組みが大事で、良い連携のきっかけが気がした
- ・連携の質という点で考えています。連携は人と人で成り立っていると思います。その点で連携の

- ・在り方について考えられたらと思います
- ・チーミング、これが重要でありまた難しいと思った

PT・OT・ST

- ・障がい、高齢者、福祉医療とまだまだ互いを知っていく必要があると感じた
- ・顔の見えるのみではなく、話しができる関係作り、相手の人柄、思いを知ることまでの関係づくりがしたいと思います→連携がスムーズになる

ケアマネジャー

- ・断らない対応、地域の方は気軽に相談できる場、専門職がいるということは大変心強いと思う
- ・多職種の人たちの苦労がわかる

社会福祉士

- ・つながり合うことを継続して、そのつながりを広げていくことが大事
- ・個々の力を高め、発信し、折り合えること 他をリスペクトすること

《5》本会の活動についての要望

病院・クリニック

- 医師 ・もっと話ができる時間があるようにしてください
- 歯科 ・介護関係の方ともっと話が出来ればと思います
- 看護師 ・グループでの時間がもう少し長いと良かった
- ・先生の言っていたイベント、あっても良いのではないかと思います
- ・今後も参加していきたいと思います

PT・OT・ST

- ・また参加したいです

保健師

- ・グランドルールがあること、とても良いと思います。話し合いの時間がもう少し欲しかったです
- ・グループワークのコーディネーターさんが良かったです
- ・打ち合わせにも時間をかけていることを感じます

薬局

- 薬剤師 ・今後も続けていければと思いました。このような研修会を開いて頂きありがとうございます
- ・本当にお疲れ様でした

居宅介護支援事業所

ケアマネジャー

- ・小区域、コミュニティで同様の検討ができると良い

訪問看護ステーション

- 看護師 ・ぜひまた参加したいです。ありがとうございました
- ・障がい者への支援方法

障がい者相談支援事業所（基幹型含む）

- 相談員 ・継続して行ってほしい。実践形式になると良いと感じるので、それぞれの地域エリアでのグループ分けも面白いのではと感じます
- ・障がい分野についても、もっと啓発が必要だと感じました
- ・地域別に同じようなグループワークを試してみるのも面白い
- ・研修部会と連携部会の企画が同じであった。それぞれの部会の役割、内容の確認、分担を検討してみたい

その他

PT・OT・ST

- ・今後もつながっていきたい

行政

- ・もっと多くの人を巻き込めたらいいなと感じた

多職種連携協働で 地域住民を支えるために

「こうすればうまくいく！」ポイント集



発行:浜松市健康福祉部高齢者福祉課
電話 053-457-2105
平成31年3月発行

はじめに

浜松市では、平成 29 年度に医療介護に従事する医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケアマネジャーなど多くの職種に対して連携に関するアンケートを行い、その結果を、浜松市医療及び介護連携連絡会の連携部会で『多職種連携に関する現状と課題』『認知症や精神疾患を有する人への支援と多職種連携』としてとりまとめ検討いたしました。

検討の中でとりまとめただけで終わるのでなく、これを活用した研修や検討をする場が必要ではないかとの意見が出されたため、平成 30 年度、領域の異なる多職種連携による在宅医療・介護連携推進事業として、多職種連携の検討会をモデル事業として実施する運びとなりました。

テーマを多職種協働で地域住民を支えるために『こうすればうまくいく！』ポイントを見える化しよう！と掲げ、このテーマに賛同していただいた多職種が集まり連携について検討し、研修会を実施いたしました。このリーフレットは、多職種連携についての検討や多職種が参加した研修会の結果を踏まえて、『こうすればうまくいく！連携のポイント』をまとめたものです。

高齢になっても、介護が必要な状態になっても、病気になっても、障がいをお持ちでも、できる限り、住み慣れた地域で暮らしたいと思っている方を支えていくためには、多職種が協働して支えていくことが不可欠です。このリーフレットが、よりよい連携の一助となれば幸いです。



(領域の異なる多職種連携推進事業)
多職種連携協働で地域住民を支えるために
「こうすればうまくいく！」ポイントを見える化しよう！ 運営メンバー

医師	小野 宏志	坂の上ファミリークリニック
歯科医師	相澤 秀夫	浜名歯科診療所
薬剤師	飯山 教好	レモン薬局三方原店
訪問看護	尾田 優美子	訪問看護ステーション細江
ケアマネジャー	太田 世津子	ケアプランセンター光
相談支援専門員	岸 直樹	浜松市障がい者基幹相談センター
看護師	高田 なおみ	浜松医科大学医学部附属病院
理学療法士	柴本 千晶	聖隷デイサービスセンター三方原
CSW(コミュニティソーシャルワーカー)	三室 勇樹	浜松市社会福祉協議会
主任介護支援専門員	澤本 友子	地域包括支援センター三方原

平成 30 年 11 月 10 日 第 1 回 研修会を実施しました。

テーマは

『他職種の役割・視点の違いを体感しよう!』 ～こうすればうまくいく、ポイントが見える化しよう!～

研修参加者の所属機関は、

病院 クリニック	29人
薬局	7人
居宅介護支援事業所	7人
地域包括支援センター	6人
デイケア デイサービス	2人
訪問看護ステーション	8人
障がい者相談支援事業所(基幹型含む)	8人
社会福祉協議会	3人
その他	6人

研修参加者の職種は、

医師	7人
歯科医師	8人
薬剤師	7人
保健師・看護師	18人
ケアマネジャー	12人
リハビリ専門職 (PT OT ST)	7人
社会福祉士	3人
精神保健福祉士	6人
介護福祉士・介護ヘルパー	0人
CSW (コミュニティソーシャルワーカー)	3人
生活支援コーディネーター	0人
その他	5人



それぞれの職種や領域（所属）が異なるメンバーでグループをつくり、創作事例を基に、3部構成のグループワークを実施しました。

研修事例の紹介

だいちさんの妻
1年前死去
認知症で3年間、
だいちさんに介護
されていました。

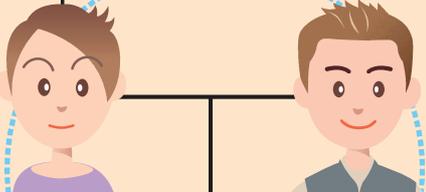


三方原 だいちさん 80歳
3年間、認知症の妻を在宅で介護してきました。大病したこともなく元気に暮らしています。農協に長く勤め、美味しいジャガイモづくりで定評がありました。自治会長をしていた時期もあり、近所からは慕われる温厚な性格の人と見られています。



だいちさんの息子 50歳
30歳で統合失調症を発症
医療中断し、現在、ひきこもりの状態です。

だいちさんの娘 47歳
隣区で、夫と子供と3人暮らし。娘は中学3年、受験生です。
だいちさんの事もお兄さんの事も心配していて、嫁ぎ先に支障のない範囲でサポートしています。



【第1部】

ある日、娘さんが3か月ぶりにだいちさん宅を訪れたところ、だいちさんが随分やせてしまっていることに気が付きました。だいちさんは今まで健康で過ごしてきたので、かかりつけの医師はいません。娘さんはだいちさんを連れて、母親を診てくれていた医師のところを受診しました。



グループワーク①

「もし、あなたがこの人に最初にかかわる場合、どんな視点で見えていきますか？」

【第2部】

受診した結果、病名は「胃がん」でした。

■だいちさんの意向

三方原の土地・生まれ育った自宅が大好きで、「ずっとここで暮らしたい」「息子のことが心配」と元気な時から話していました。

■娘さんから得られた情報

だいちさんは、情はあるものの不器用で、息子さんに対して厳しく接してきました。息子さんは、幼少期から自分の感情を押し込めながらも、友人関係は良好、学業優秀であり、有名大学に進学しました。卒業後、就職をしましたが、29歳の頃より、部署異動があると腹痛・頭痛等を訴え、休むようになりました。だいちさんは心配しながらも叱責し、会社への通勤を促していました。30歳頃、「会社のパソコンを使うと電波で内臓が溶ける。」等訴え、自宅に引きこもるようになり、退職しました。だいちさんは見かねて、無理やり精神科を受診させ、処方薬はもらったものの、その後、通院を促すと暴言等が見られるようになり受診を継続できていません。だいちさんはどうしていけば良いか悩みながらも、精神科の受診は中断、以後、自宅にこもり20年間が経過していました。自宅ではぶつぶつ何かを言っている姿は見られるものの、だいちさんが口うるさくない限り暴言等はなく生活していました。

グループワーク②

もし、あなたがこの段階でだいちさん一家に関わる時、どう支援しますか？」

【第3部】

グループワーク③

「グループワークを通じて感じたこうすればうまく連携できるポイントは？」

研修終了後のアンケートより

直接、多職種の方々とは話しができ、他職種の感じていることを聞く事が出来てよかった、顔の見える関係を実感できた等の感想がありました。

★多職種連携協働について「重要」と感じたことは？

- 家族を支えていくという支援
- 顔の見える関係づくり
- 医師との距離を縮める
- 情報の伝え方
- お互いを理解していくこと、よく話すこと
- お互いの立場を理解し、やや努力すること、越境はしない
- それぞれの職種のできることで、できないことを確認すること
- 隙間のない支援に繋げるために、それぞれが少し自分の領域を超えて支援をしていくこと
- 連携の言葉だけでなく“質”が重要



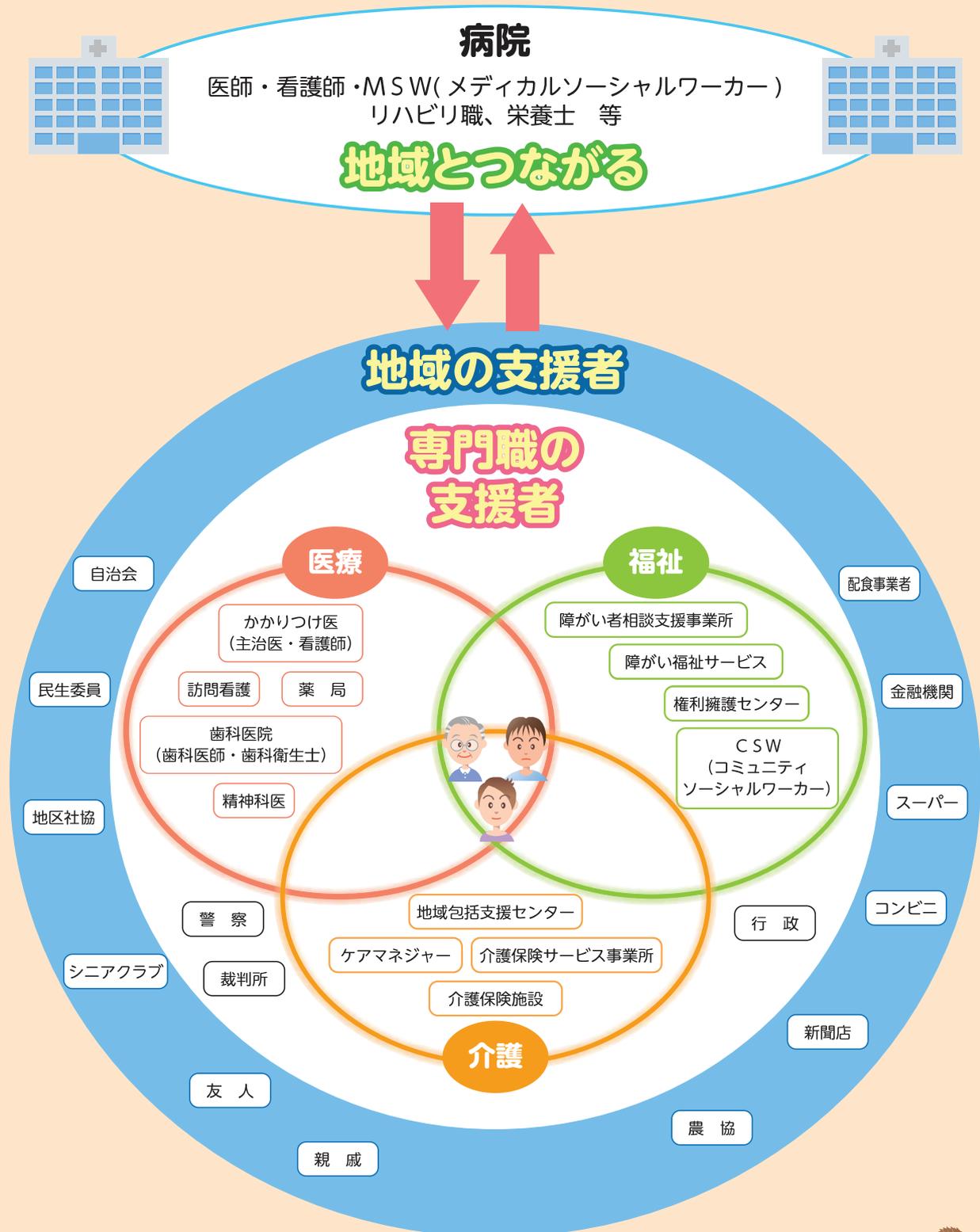
ポイント

『医療現場での常識』と『在宅現場での常識』の違いを認め合うことができる良質の連携を取っていくためにできることは、顔の見える関係から一歩踏み出すこと！

地域で暮らす三方原だいちさんの家族全体を見ていきたい

その視点をエコマップに表すと…

※エコマップとは、本人・家族や社会資源との関係を描きだした図のこと



大切なこと!

本人(だいちさん)の意向・思いを大切に
 長男の自立生活も視野に入れる。長男の生きる力を引き出す
 主介護者の長女の生活にも配慮する。



平成31年1月18日 第2回 研修会を実施しました。

◆講演会

「浜松の専門職が、 今より仲良くなるために必要なこと ～多様性の許容と相互のリスペクト～

講師 浜松医科大学医学部附属病院医療福祉支援センター
特任教授 小林利彦先生



★多職種連携協働を進めるための、大切なポイントをお話いただきました。

- チームは、達成すべき目標やアプローチを共有し、連帯責任を果たせる集団であること、そして、 $1 + 1 + 1 > 3$ となるような成果が期待されるもの。
- 真のチームとは、多人数が集まり仲が良いのではなく、チーム内で自身の専門領域を主張できる事が必要。適材者がリーダーとなり協働型リーダーシップを発揮する。
- 与えられた仕事でなく、すべき仕事、出来る仕事を探すことが重要、専門職種の垣根を外し、職位の差を縮め、役割分担を明確化する。隙間を共有し責任を伴う相互乗り入れは許容する。
- 率直に意見を言い合える、正しいと思ったことを口に出せる環境が必要。多様性を認め合い、相手をリスペクトできるかが大切。
- 多職種が自律して協働する。トップダウン(慣れ)から脱却し何を指すかを理解し共有する。
- 試みる(行動を起こす)、そして省察(振り返り)し、カンファレンス等で議論しバージョンアップする。
- みんなで一緒に仕事をする事・住民啓発に取り組む。
- 利用者・家族も共にメンバーとなって協働し、共通目的である「利用者の願い」を叶える。

◆グループワーク

前回の研修で出た意見を取りまとめたものを確認しながら、更にステップアップのためのポイント等について、グループワークをしました。



あとがき

『多職種連携協働で地域住民を支えるために こうすればうまくいく！ポイントが見える化しよう！』のテーマを掲げ、2回の研修会を行いました。研修会には、実際に地域や病院等で活躍している多職種の方にご参加いただき、グループワークを重ね、多職種連携協働はこうすればうまくいくポイントをまとめました。研修で使用した事例は、他職種の役割や視点の違いを体感するため、運営メンバーで創作した事例です。顔の見える関係から一歩進んだ連携協働を図るため、身近なところで、この事例やリーフレットを活用した研修会が行われることを期待しております。また、連携協働がうまくいかないと感じた時、このリーフレットを見返していただければ、連携協働がうまくいくためのヒントが見つかるかもしれません。是非ご活用ください。

資料 4-1

令和元年5月23日（木）、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

回答者職種： ケアマネジャー
経験年数： 5年～18年
回答者人数： 20名

○今日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった： 20名
あまりなかった： 0名
なかった： 0名

※どのような点が参考になりましたか？

- ・歯周病と糖尿病の関係は聞いてみてハッとした
障がい児・者の話も多く気づくことができました（経験13年）
- ・訪問診療希望の方で、どのように歯科医師を探していいのかわからず、
困っている在宅介護者がいらっしゃるので、研修会で県のホームページから
検索することができる、とにかく近くの歯医者へ相談するなどするとよいと分かり、
たいへん参考になった（経験11年）
- ・口腔機能の維持・向上が人生の潤いや社会的孤立の防止につながる（経験11年）
- ・部会があることを知り、各部会の全ての説明が参考になりました
障がい者歯科協力医があること（経験10年）
- ・各部会の話、講演が聞いて良かったです（経験9年）
- ・幼児期からの教育が重要なこと
プレフレイルの状態での発見対策が重要なこと（経験18年）
- ・子供の時に身につけた食べ方、噛み方は一生ものとなる
口の中の状態がいろいろな疾患の治療の質を下げるという事（経験15年）
- ・地域のケアマネに訪問診療をもっと知っていただくようにしたい（経験15年）
- ・口腔内の健康は体の健康につながる。糖尿病でのHbA1cが改善、初期の治療で改善が早い
（経験15年）
- ・歯、口の中が細菌の温床になっていて、歯そう膿漏の菌で血栓ができやすくなってしま
うとか、口腔ケアが認知症や糖尿病の改善に繋がるなど、大切さが実感できました
（経験10年）
- ・歯科医師の考えも聞け勉強になった（経験10年）
- ・子供の時から食べ方に気をつける（経験14年）
- ・訪問診療の対象（経験12年）
- ・高齢者以外の事も学べてよかったです（経験6年）
- ・乳児期の話は初めて聞いた。術前の口腔内治療をすることもはじめて知りました
（経験17年）
- ・訪問診療につながるまでの問題点を感じる事が、職種によって違うことも分かり参考
になった（経験11年）
- ・先生と直接話しをすることができ、具体的なアドバイスも頂き、今後の実務に生かして
いきたい（経験5年）
- ・障がい者歯科協力医院（特殊歯科部会）、知ることができた（経験6年）

○これまで、ご自身は歯科との連携はとれていたと思いますか？

充分とれていた： 1名
少しはとれていた： 14名
とれていなかった： 6名

○今日の研修会を機に、今後、歯科との連携が取り易くなりましたか？

取り易くなった： 19名
そうは思わない： 1名

○今後も、今日のような研修会を定期的で開催して欲しいですか？

開催して欲しい： 19名
そうは思わない： 1名

- 今後、このような研修会を行う場合、聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望等、何でも結構です。ご自由にお書きください。
- ・ 今後は、かかりつけの歯科を聞くだけでなく、連携を図るようにしていきます。
ありがとうございました（経験11年）
 - ・ 非常に話しやすい先生ばかりで、歯科を身近に感じました。
今後、気軽にご相談させていただけると幸いです（経験11年）
 - ・ ケアマネに対しても、このような研修会を開催して連携をとっていければと思います。
今回参加して良かったです（経験10年）
 - ・ 口腔ケア、治療について気軽に聞けると良いと思います（経験15年）
 - ・ 勉強になりました。ありがとうございます（経験15年）
 - ・ ぜひ、区単位でもケアマネージャーとの研修会もお願いしたいです（経験10年）
 - ・ 訪問診療につながるような援助ができればと思います。いろいろ話が聞け良かったです（経験17年）
 - ・ 口腔内の観察ポイント（経験12年）
 - ・ 各区で行っていただけると良いかと思います（経験6年）
 - ・ 事例（連携した）発表が分かりやすいと思う（経験17年）
 - ・ 訪問診療でどのように治療しているのか、事例の紹介をしてもらえると、利用者様へ上手く説明ができるようになると思います（経験11年）
 - ・ 市の事業での歯科健診のはがきを見たときは、勧めていこうと思います（経験8年）

資料 4-2

令和元年5月23日（木）、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

回答者職種： 看護師
経験年数： 無回答～37年
回答者人数： 17名

○今日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった： 17名

あまりなかった： 0名

なかった： 0名

※どのような点が参考になりましたか？

- ・演題内容、どれも興味深く聞きました。
歯科医師の方と、いろいろとお話が出来て良かったです（経験30年）
- ・乳幼児期からの口腔機能が大切であること。
訪問診療、診査をすすめるきっかけが分かった（経験12年）
- ・歯科医師の方と気軽にお話しができてとても参考になりました。
歯科にも部会があり、専門的な分野で活躍されていることが分かりました（未記入）
- ・市の歯科訪問診療の利用について→受診のきっかけを作る。訪問してくれることを市民が
知ることが出来る。
かかりつけ歯科医の重要性（経験10年）
- ・歯科訪問調査のチラシは何度か目にしていましたが、実際に利用者に紹介するまでには
至っていなかった。歯科受診に行きにくい方に勧めてみたいと思う。
歯が全身に影響を及ぼす影響について改めて知ることが出来ました（経験10年）
- ・訪問診療ができる人が限られており、病名にもよるといふことを知ることができた
（経験17年）
- ・歯科医師会の業務や、口腔内を整えることの大切さを知りました（経験6年）
- ・実際に歯科医師の方とお話することで、訪問してどんなところに視点を置いて
みていくことが必要なのかを知れた。義歯に関する疑問も解決できた（経験22年）
- ・MCの大切さ→口の動き、使い方
- ・歯科訪問診療→すぐ活用したい
健診の大切さ→促していく
障がい者の口腔対応の大変さ（経験22年）
- ・在宅への訪問診療の内容、認知の方への訪問について話が聞けて参考になりました
（未記入）
- ・歯科診療に関する仕組みが理解できた（経験7年）
- ・小児、発達に関わる口腔機能、乳幼児期の食べ方が高齢まで習慣として続くことの
重要性について、とても大事なことだと思った（経験37年）
- ・地区別だった為、顔の見える状況が出来て良かったです。いろいろ情報交換が出来ました
（経験35年）
- ・訪問看護師が、地域の方に歯科受診を勧めていく力になれば、と改めて思いました
（経験30年・訪問5年）
- ・子供の頃からの口腔機能が、大人になるまでつながっていること、子供の頃の歯科、
大切だと思いました。
プレフレイルの発見や関わり、つなげることが大切と感じました（経験26年）
- ・訪問診療の実際について知ることが出来ました（経験35年）

○これまで、ご自身は歯科との連携はとれていたと思いますか？

充分とれていた： 1名

少しはとれていた： 14名

とれていなかった： 2名

○今日の研修会を機に、今後、歯科との連携が取り易くなりましたか？

取り易くなった： 17名

そうは思わない： 0名

○今後も、今日のような研修会を定期的で開催して欲しいですか？

開催して欲しい： 17名

そうは思わない： 0名

- 今後、このような研修会を行う場合、聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望等、何でも結構です。ご自由にお書きください。
- ・症例検討など、具体例を知りたい（経験6年）
 - ・ぜひ、職場での勉強会をしていただきたいです（経験22年）
 - ・区ごとに開催してもらえると、より参加しやすいと感じた（経験7年）
 - ・迅速な対応（往診）を希望します（経験35年）
 - ・今後も、いろいろとお話を聞かせていただきたいと思います（経験26年）

資料 4-3

令和元年5月23日（木）、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

回答者職種： 社会福祉士
経験年数： 1年～20年
回答者人数： 8名

○今日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった： 8名

あまりなかった： 0名

なかった： 0名

※どのような点が参考になりましたか？

- ・ 歯科医師会の取り組み（経験3年）
- ・ 歯が悪い→社会的孤立につながる。よく理解できました（経験3年）
- ・ 歯科訪問診療について存じ上げず、大変失礼しました。
幼児期からの口腔機能の獲得等については大変勉強になりました（経験1年）
- ・ むし歯、歯周病が、ガン、循環器の治療成績に影響していること。
口腔機能を保つことの意義（経験7年）
- ・ 糖尿病と口腔問題の関係性（経験1年）
- ・ 口腔内の機能向上・維持が小児から必要であることが理解できた（経験20年）
- ・ 歯科訪問診療の利用について、利用する意義、その後の流れ。
内容が分からないと勧められないので（経験10年）

○これまで、ご自身は歯科との連携はとれていたと思いますか？

充分とれていた： 0名

少しはとれていた： 4名

とれていなかった： 4名

○今日の研修会を機に、今後、歯科との連携が取り易くなりましたか？

取り易くなった： 8名

そうは思わない： 0名

○今後も、今日のような研修会を定期的で開催して欲しいですか？

開催して欲しい： 8名

そうは思わない： 0名

○今後、このような研修会を行う場合、聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望等、何でも結構です。ご自由にお書きください。

- ・ 歯科のことを知らない関係機関が多いと思う。
特にケアマネを対象に研修会を開催した方がいいと思いました（経験3年）

資料 4-4

令和元年5月23日（木）、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

回答者職種： 作業療法士
経験年数： 4年
回答者人数： 1名

○今日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった： 1名

あまりなかった： 0名

なかった： 0名

※どのような点が参考になりましたか？

- ・訪問歯科診療、障がい者を対象とした研修等も行っている
- ・浜松市市内で多職種の連携を図っている

○これまで、ご自身は歯科との連携はとれていたと思いますか？

充分とれていた： 0名

少しはとれていた： 0名

とれていなかった： 1名

○今日の研修会を機に、今後、歯科との連携が取り易くなりましたか？

取り易くなった： 1名

そうは思わない： 0名

○今後も、今日のような研修会を定期的で開催して欲しいですか？

開催して欲しい： 1名

そうは思わない： 0名

○今後、このような研修会を行う場合、聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望等、何でも結構です。ご自由にお書きください。

- ・在宅の口腔ケアや、むし歯・歯周病予防の方法

資料 4-5

令和元年5月23日（木）、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

回答者職種： 保健師
経験年数： 無回答～33年
回答者人数： 3名

○今日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった： 3名

あまりなかった： 0名

なかった： 0名

※どのような点が参考になりましたか？

- ・ 歯科医師会の中での部会が分かり、興味深かった。
特に乳児期の食べ方・習慣の大切さがわかった（経験33年）
- ・ 歯科医師の先生たちが、訪問診療を積極的に行っていることがよく分かり、
利用をもっと勧めたいと思います（経験12年）
- ・ 子供の頃、習得した食べ方・飲み込み方のクセがずっと影響していると聞いて驚きました。
自分の子供に対してどうしつけたか・・・と考えてしまいました（未記入）

○これまで、ご自身は歯科との連携はとれていたと思いますか？

充分とれていた： 1名

少しはとれていた： 2名

とれていなかった： 0名

○今日の研修会を機に、今後、歯科との連携が取り易くなりましたか？

取り易くなった： 3名

そうは思わない： 0名

○今後も、今日のような研修会を定期的で開催して欲しいですか？

開催して欲しい： 3名

そうは思わない： 0名

○今後、このような研修会を行う場合、聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望等、何でも結構です。ご自由にお書きください。

- ・ 訪問診査の具体的な内容や訪問診療の実際の事例を知りたいです（経験12年）

資料 4-6

令和元年5月23日（木）、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

回答者職種： 包括職員
経験年数： 3年
回答者人数： 1名

○今日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった： 1名

あまりなかった： 0名

なかった： 0名

※どのような点が参考になりましたか？

・訪問診療の内容

○これまで、ご自身は歯科との連携はとれていたと思いますか？

充分とれていた： 0名

少しはとれていた： 0名

とれていなかった： 1名

○今日の研修会を機に、今後、歯科との連携が取り易くなりましたか？

取り易くなった： 1名

そうは思わない： 0名

○今後も、今日のような研修会を定期的で開催して欲しいですか？

開催して欲しい： 1名

そうは思わない： 0名

○今後、このような研修会を行う場合、聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望等、何でも結構です。ご自由にお書きください。

資料 4-7

令和元年5月23日（木）、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

回答者職種： 事務員
経験年数： 1年～16年
回答者人数： 2名

○今日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった： 2名
あまりなかった： 0名
なかった： 0名

※どのような点が参考になりましたか？

- ・ 歯科医師の先生と顔の見える関係ができたことが良かったです。
口腔ケアが、以下の治療にもつながっていることが分かりました（経験1年）
- ・ 訪問診査の実態を知ることができた（経験16年）

○これまで、ご自身は歯科との連携はとれていたと思いますか？

充分とれていた： 0名
少しはとれていた： 2名
とれていなかった： 0名

○今日の研修会を機に、今後、歯科との連携が取り易くなりましたか？

取り易くなった： 2名
そうは思わない： 0名

○今後も、今日のような研修会を定期的で開催して欲しいですか？

開催して欲しい： 2名
そうは思わない： 0名

○今後、このような研修会を行う場合、聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望等、何でも結構です。ご自由にお書きください。

- ・ 各グループワークで出た意見を共有するために発表があるとよいと思います（経験1年）
- ・ 歯科衛生士とも関係を築けるようになるとよいのではないかと（経験16年）

資料 4-8

令和元年5月23日（木）、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

回答者職種： 歯科医師
経験年数： 15年～42年
回答者人数： 3名

○今日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった： 3名
あまりなかった： 0名
なかった： 0名

※どのような点が参考になりましたか？

- ・各職種の歯科に対する意識（経験15年）
- ・なかなか訪問歯科までつながらない場合が多い事もあることがわかった（経験42年）
- ・困ったことがあれば歯科医師会に連絡してほしい（経験30年）

○これまで、ご自身は歯科との連携はとれていたと思いますか？

充分とれていた： 0名
少しはとれていた： 3名
とれていなかった： 0名

○今日の研修会を機に、今後、歯科との連携が取り易くなりましたか？

取り易くなった： 2名
そうは思わない： 1名

○今後も、今日のような研修会を定期的で開催して欲しいですか？

開催して欲しい： 3名
そうは思わない： 0名

○今後、このような研修会を行う場合、聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望等、何でも結構です。ご自由にお書きください。

- ・回数を行うことが大事（経験15年）
- ・専門用語がわからないので教えてほしい（経験30年）

(資料 5 - 1) 本会主催多職種連携研修会の様子



(資料 5 - 2) 本会主催多職種連携研修会、講師の小粥先生



資料6-1

令和2年1月30日(木)、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

1. 職種：ケアマネジャー アンケート回答人数：18名

2. 本日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった：18名 あまりなかった：0名 なかった：0名

※どのような点が参考になりましたか？あるいはありませんでしたか？

- ・高齢者であるということで口腔内に何らかの問題がある可能性が高いため、見逃しやすい口の中を必ずみる(経験年数：18年)
- ・口腔内に問題があると感じたときには、連携用紙等を活用し、歯科医につなげる(経験年数：18年)
- ・訪問に積極的に行かれているのを知りました(経験年数：10年)
- ・歯科の定期受診が当たり前になってほしい(経験年数：17年)
- ・口腔ケア、口腔機能の大切さを改めて実感しました(経験年数：13年)
- ・いくつになっても改善できることをわかりました(経験年数：13年)
- ・介護予防に歯科が重要であること(経験年数：13年)
- ・歯科との距離が縮まり、身近で頼ることができる存在になりました(経験年数：11年)
- ・口腔管理の必要性を改めて感じました(経験年数：11年)
- ・口腔ケアの大切さを改めて知りました(経験年数：19年)
- ・乾燥、むせの確認をして、気になるようなら受診をすすめる(経験年数：19年)
- ・口腔内の清掃だけの受診もOK、と言ってくださり安心して利用者さんに紹介できると思いました(経験年数：19年)
- ・口腔内のそうじ、クリーニングでも受診できることを知った(経験年数：13年)
- ・ハードルが下がるので受診すすめやすい(経験年数：13年)
- ・口の中をみて歯科受診、口腔ケアの大切さを伝えていきたいと思います(経験年数：12年)
- ・おいしく食べるには大切なこと(経験年数：12年)
- ・口を清潔にすることで肺炎も防げる(経験年数：12年)
- ・全身から口の中を予想し、確認したいと思います(経験年数：12年)
- ・歯科医を聞く(経験年数：12年)
- ・仕事というより自分のことをまず考えて、歯医者さんを予約します(経験年数：15年)
- ・口腔ケアは大事、誤嚥性肺炎の予防にもなる(経験年数：13年)
- ・専門の方に携わっていただくことで健康寿命が長くなる(経験年数：13年)
- ・どうしても体の方に目が行きがちだが、口腔内も大事なことがわかった(経験年数：13年)
- ・利用者に歯科をつなげたい方があり、訪問診療から口腔清潔からすすめていくとよいなど、お話が参考になりました(経験年数：17年)
- ・かかりつけの歯科医を確認することの必要性について話がありました(経験年数：11年)
- ・歯科を発想することが乏しかったが、どんなふうを考えるかが学べた(経験年数：7年)

- ・訪問口腔衛生事業の現状、困難さがわかりました(経験年数：未記入)
- ・講演がわかりやすく、いいお話をきくことができました(経験年数：5年)
- ・口腔衛生の大切さ(経験年数：13年)

3. これまで、ご自身が現場で歯科衛生士の必要性を感じたことはありますか？

あった：16名 なかった：0名 歯科衛生士を知らなかった：2名 無回答：1名

※歯科衛生士を知らなかった2名のうち、1名は「歯科衛生士の活動を知らなかった」という意味でチェックしている

4. これまで、ご自身は歯科との連携がとれていましたか？

充分とれていた：0名 少しはとれていた：12名 とれていなかった：6名

5. このような研修会をきっかけに、歯科との連携がとり易くなりますか？

取り易くなる：17名 そうは思わない：0名 無回答：1名

6. 次年度以降も、このような研修会を定期的で開催してほしいですか？

開催してほしい：17名 そうは思わない：0名 無回答：1名

7. 次年度以降、このような研修会を行う場合に聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望、研修会に出席したことを今後、どう活かしていきたいか等、なんでも結構です。ご自由にお書きください。

- ・歯科の先生との交流機会が増えてきたことがとてもうれしいです。なかなか機会がないので・・・(経験年数：18年)
- ・口腔のアセスメントについて、ケアマネ対象に研修会をしてほしい(経験年数：17年)
- ・歯科受診を拒否している方へのアプローチ方法(経験年数：13年)
- ・口腔ケアの重要性を介護者さんにもっと理解していただくための活動(経験年数：13年)
- ・積極的に歯科医とつながることを日ごろから心がけていこうと思います。本日はありがとうございました(経験年数：11年)
- ・この研修で得た知識を自分の利用者さんにお伝えしたいと思います(経験年数：12年)
- ・まず口の中を見せて頂こうと思います(経験年数：12年)
- ・受診をすすめても家族が迷惑がられると決めつけずに、必要性を伝えていきたいと思います(経験年数：12年)
- ・今日のことは事業所内で共有します(経験年数：15年)
- ・自分の担当の人が歯医者さんに通っているか、確認します(経験年数：15年)
- ・昨年も歯科医師会の研修会に参加させていただき、大変勉強になったと覚えています。口腔内の悪化→食事形態の低下→生きる意欲の低下とつながり、レベル低下につながっていくのは寂しいことです。おいしいものを最後の時まで召し上がっていただけるように援助を行っていききたいと思います(経験年数：13年)

- 口腔、歯科の大切さがわかり、利用者への支援にもつながるようになってきているかと思います。今後も参加したいと思います(経験年数：17年)
- 歯科医師、歯科衛生士と密に関われる交流会や研修会に、今後も参加したいと思います。本日はありがとうございました(経験年数：11年)
- 直接話せる、顔がみえることが、次の相談につなげられると思うので、続けて頂けたらと思います(経験年数：7年)
- 歯科衛生士さんと会える研修に参加したことがあまりないので、参考になりました。またいろいろと教えてほしいです(経験年数：12年)

資料6-2

令和2年1月30日(木)、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

1. 職種：訪問看護師 アンケート回答人数：14名

2. 本日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった：14名 あまりなかった：0名 なかった：0名

※どのような点が参考になりましたか？あるいはありませんでしたか？

- ・ 歯科医師の先生が具体的にできること、訪問回数、目標や限界等わかりました(経験年数：25年)
- ・ 訪問看護の対象者に歯科訪問診療の紹介をしたいと思います(経験年数：36年)
- ・ ドクターとの情報交換ができていなかったです(経験年数：35年)
- ・ 口腔内の大切さを知ってもらえること、周知が必要だと感じました(経験年数：35年)
- ・ 口腔ケアをして、口腔機能を維持することが免疫力を上げ、健康寿命の延伸につながるということ。どうしても目に見える足腰の動きにとらわれてしまっている。口腔にまで目が届いていないということに気づかされた。口腔の大切さを改めて学ばせて頂きました(経験年数：35年)
- ・ 歯科受診の重要性がわかりました(経験年数：30年)
- ・ グループワークで、直接歯科医師から話を聞くことができ、日ごろ疑問に思っていることを教えてもらった(経験年数：30年)
- ・ 口腔ケアの大切さがわかりやすかった(経験年数：35年)
- ・ 加齢の予防は口腔ケアから(経験年数：35年)
- ・ 口腔ケア、機能、必要性(経験年数：40年)
- ・ 歯科医師の先生と意見交換ができる機会が少ないので、お話が聞けてとてもよかったです(経験年数：5年)
- ・ オーラルフレイルに対する意識改善の必要性(経験年数：13年)
- ・ 病気ばかり、症状ばかりに意識が向いていたが、口腔内に意識を向けることの大切さに気付かせてもらった(経験年数：20年)
- ・ 口腔内の機能低下について意識が高まった(経験年数：24年)
- ・ 口腔内のチェックも含めて、またどうしてケアができない状況なのか、考えるきっかけとなった(経験年数：24年)
- ・ 最後まで食事を自分で食べられることが QOL をかなえることだと思いました。そう支援できるようにいろいろなこと(口腔を整える方法)を教えて頂きました(経験年数：6年)

3. これまで、ご自身が現場で歯科衛生士の必要性を感じたことはありますか？

あった：14名 なかった：0名 歯科衛生士を知らなかった：0名

4. これまで、ご自身は歯科との連携がとれていましたか？

充分とれていた：0名 少しはとれていた：6名 とれていなかった：7名 無回答：1名

5. このような研修会をきっかけに、歯科との連携がとりやすくなりますか？

取り易くなる：14名 そうは思わない：0名

6. 次年度以降も、このような研修会を定期的を開催してほしいですか？

開催してほしい：14名 そうは思わない：0名

7. 次年度以降、このような研修会を行う場合に聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望、研修会に出席したことを今後、どう活かしていきたいか等、なんでも結構です。ご自由にお書きください。

- ・連携をとっての成功事例がわかるとつながりやすいです(経験年数：25年)
- ・歯科受診の状況を確認することが、必要だと感じにくいいため、情報を得るようにしていきたいと思います(経験年数：35年)
- ・地域の高齢者に伝えられるような、口腔体操及びフレイルチェック等を教えて頂けるといいと思います(経験年数：30年)
- ・歯科受診につなげることの大切さを、ご利用者様、ご家族様にもっと強く伝えていきたいと思ます(経験年数：5年)
- ・どんなケースが歯科につながっていて、どうなったかを、いろいろなケースを知りたい(経験年数：20年)

資料6-3

令和2年1月30日(木)、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

1. 職種：社会福祉士 アンケート回答人数：4名

2. 本日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった：4名 あまりなかった：0名 なかった：0名

※どのような点が参考になりましたか？あるいはありませんでしたか？

- ・健康を守るために口腔ケア(経験年数：8年)
- ・本人の努力(意識改革・行動変容)をうながしていく(経験年数：8年)
- ・口腔ケアの大切さ、口腔ケアを継続することが介護負担軽減につながる(経験年数：5年)
- ・8020 高齢者が増加することによる課題は考えたことがなかった(経験年数：5年)
- ・定期的に口腔内を検診しておくことの重要性や、高齢者にとって口の中を整えておくことが、楽しく長生きするための秘訣なのだとわかった。訪問診査を広めていこうと思いました(経験年数：2年)
- ・身体が弱っていれば、口腔内の機能も比例して落ちているということ(経験年数：20年)

3. これまで、ご自身が現場で歯科衛生士の必要性を感じたことはありますか？

あった：2名 なかった：1名 歯科衛生士を知らなかった：0名 無回答：1名

4. これまで、ご自身は歯科との連携がとれていましたか？

充分とれていた：0名 少しはとれていた：1名 とれていなかった：3名

5. このような研修会をきっかけに、歯科との連携がとり易くなりますか？

取り易くなる：4名 そうは思わない：0名

6. 次年度以降も、このような研修会を定期的で開催してほしいですか？

開催してほしい：4名 そうは思わない：0名

7. 次年度以降、このような研修会を行う場合に聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望、研修会に出席したことを今後、どう活かしていきたいか等、なんでも結構です。ご自由にお書きください。

- ・障がい児者、歯を失っていることが多いので、そのあたりの現状や治療などなど(経験年数：8年)
- ・口腔ケアの重要性を担当地区住民に普及啓発していきたいと感じた(経験年数：5年)

資料6-4

令和2年1月30日(木)、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

1. 職種：保健師 アンケート回答人数：5名

2. 本日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった：5名 あまりなかった：0名 なかった：0名

※どのような点が参考になりましたか？あるいはなりませんでしたか？

- ・ 歯科訪問診査があることと、どのような流れになっているのかがわかった(経験年数：1年)
- ・ 口腔、歯科と聞くと「歯」に注目しがちだが、「口の中全体」として見る必要があるなど思いました(経験年数：3年)
- ・ 訪問歯科のことについてももっと知り、周知させていかないといけないなど感じました(経験年数：3年)
- ・ 小粥先生の講演が大変面白く参考になりました(経験年数：3年)
- ・ 歯科の大切さはなんとなくわかってはいましたが、在宅でも最後まで暮らすためになぜ口が大切なのかよくわかりました(経験年数：3年)
- ・ 歯科へつなげる、頑張っていきたいです(経験年数：3年)
- ・ 歯科とのかかわり方、トータルケアをするための視点を学べました(経験年数：1年)
- ・ できる限り家で暮らすために、口から食べて排泄できることが大切であり、そのためにも口腔ケアが大切ということを再認識しました(経験年数：34年)

3. これまで、ご自身が現場で歯科衛生士の必要性を感じたことはありますか？

あった：4名 なかった：1名 歯科衛生士を知らなかった：0名

4. これまで、ご自身は歯科との連携がとれていましたか？

充分とれていた：0名 少しはとれていた：2名 とれていなかった：3名

5. このような研修会をきっかけに、歯科との連携がとり易くなりますか？

取り易くなる：5名 そうは思わない：0名

6. 次年度以降も、このような研修会を定期的で開催してほしいですか？

開催してほしい：5名 そうは思わない：0名

7. 次年度以降、このような研修会を行う場合に聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望、研修会に出席したことを今後、どう活かしていきたいか等、なんでも結構です。ご自由にお書きください。

- ・ 直接、歯科医師の先生や歯科衛生士さんとお話しできる機会が今後もあると、とても勉強になります(経験年数：3年)

資料6-5

令和2年1月30日(木)、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

1. 職種：行政・事務職 アンケート回答人数：2名

2. 本日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった：2名 あまりなかった：0名 なかった：0名

※どのような点が参考になりましたか？あるいはありませんでしたか？

- ・歯科衛生士の視点からの話が参考になった(経験：17年)
- ・グループワークで専門的な話を聞けて、勉強になった(経験：17年)
- ・歯科医師、ケアマネなどが退院時など連携していることがわかった(経験：1年)
- ・口腔ケアの必要性、歯科へつなげることの大切さがわかった(経験：1年)

3. これまで、ご自身が現場で歯科衛生士の必要性を感じたことはありますか？

あった：1名 なかった：1名 歯科衛生士を知らなかった：0名

4. これまで、ご自身は歯科との連携がとれていましたか？

充分とれていた：0名 少しはとれていた：1名 とれていなかった：1名

5. このような研修会をきっかけに、歯科との連携がとりやすくなりますか？

取りやすくなる：2名 そうは思わない：0名

6. 次年度以降も、このような研修会を定期的で開催してほしいですか？

開催してほしい：2名 そうは思わない：0名

7. 次年度以降、このような研修会を行う場合に聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望、研修会に出席したことを今後、どう活かしていきたいか等、なんでも結構です。ご自由にお書きください。

資料6-6

令和2年1月30日(木)、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

1. 職種：歯科衛生士 アンケート回答人数：3名

2. 本日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった：3名 あまりなかった：0名 なかった：0名

※どのような点が参考になりましたか？あるいはありませんでしたか？

- ・小粥さんのご講演全体的に(経験年数：34年)
- ・グループワークでは、他の職種の方が歯科に着目してくださっていることに感心しました(経験年数：34年)
- ・ケアマネジャーさんが口腔内を診る習慣がほとんどないこと、訪看さんもどの段階で歯科につながっていけばよいのか分からないことを知った。サービス担当者会議に歯科がほとんど参加していないのも問題ではないかと感じました(経験年数：25年)

3. これまで、ご自身が現場で歯科衛生士の必要性を感じたことはありますか？

あった：2名 なかった：0名 歯科衛生士を知らなかった：0名 無回答：1名

4. これまで、ご自身は歯科との連携がとれていましたか？

充分とれていた：0名 少しはとれていた：0名 とれていなかった：0名 無回答：3名

5. このような研修会をきっかけに、歯科との連携がとり易くなりますか？

取り易くなる：2名 そうは思わない：0名 無回答：1名

6. 次年度以降も、このような研修会を定期的で開催してほしいですか？

開催してほしい：3名 そうは思わない0名

7. 次年度以降、このような研修会を行う場合に聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望、研修会に出席したことを今後、どう活かしていきたいか等、なんでも結構です。ご自由にお書きください。

- ・認知症高齢者への口腔ケア、食支援(経験年数：34年)

資料6-7

令和2年1月30日(木)、歯科医師会主催多職種連携研修会アンケート結果

1. 職種：歯科医師 アンケート回答人数：9名

2. 本日の研修会の内容で参考になったことはありましたか？

あった：9名 あまりなかった：0名 なかった：0名

※どのような点が参考になりましたか？あるいはありませんでしたか？

- ・小粥先生の話(経験年数：25年)
- ・ケアマネさんの大切さが少し理解できた(経験年数：20年)
- ・改めて、オーラルフレイルの重要性(経験年数：25年)
- ・様々な立場の方の考え方、導入の機会が増えると方向と思う(経験年数：40年)
- ・口腔機能訓練の大切さを他の職種の方に説明できるようになれそう(経験年数：31年)

3. これまで、ご自身が現場で歯科衛生士の必要性を感じたことはありますか？

あった：8名 なかった：0名 歯科衛生士を知らなかった：0名

4. これまで、ご自身は歯科との連携がとれていましたか？

充分とれていた：1名 少しはとれていた：5名 とれていなかった：0名 無回答：3名

5. このような研修会をきっかけに、歯科との連携がとりやすくなりますか？

取りやすくなる：8名 そうは思わない：0名 無回答：1名

6. 次年度以降も、このような研修会を定期的で開催してほしいですか・

開催してほしい：8名 そうは思わない：0名 無回答：1名

7. 次年度以降、このような研修会を行う場合に聞いてみたい内容、連携を構築するうえで歯科医師会への要望、研修会に出席したことを今後、どう活かしていきたいか等、なんでも結構です。

ご自由にお書きください。

- ・若いドクターに参加の機会を与えてあげてください(経験年数：32年)